

Ⅲ 調査結果の詳細

Ⅱ 調査結果の詳細

1. 男女平等に関する意識について

(1) 男女の地位の平等感について

問1 あなたは、次のような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。

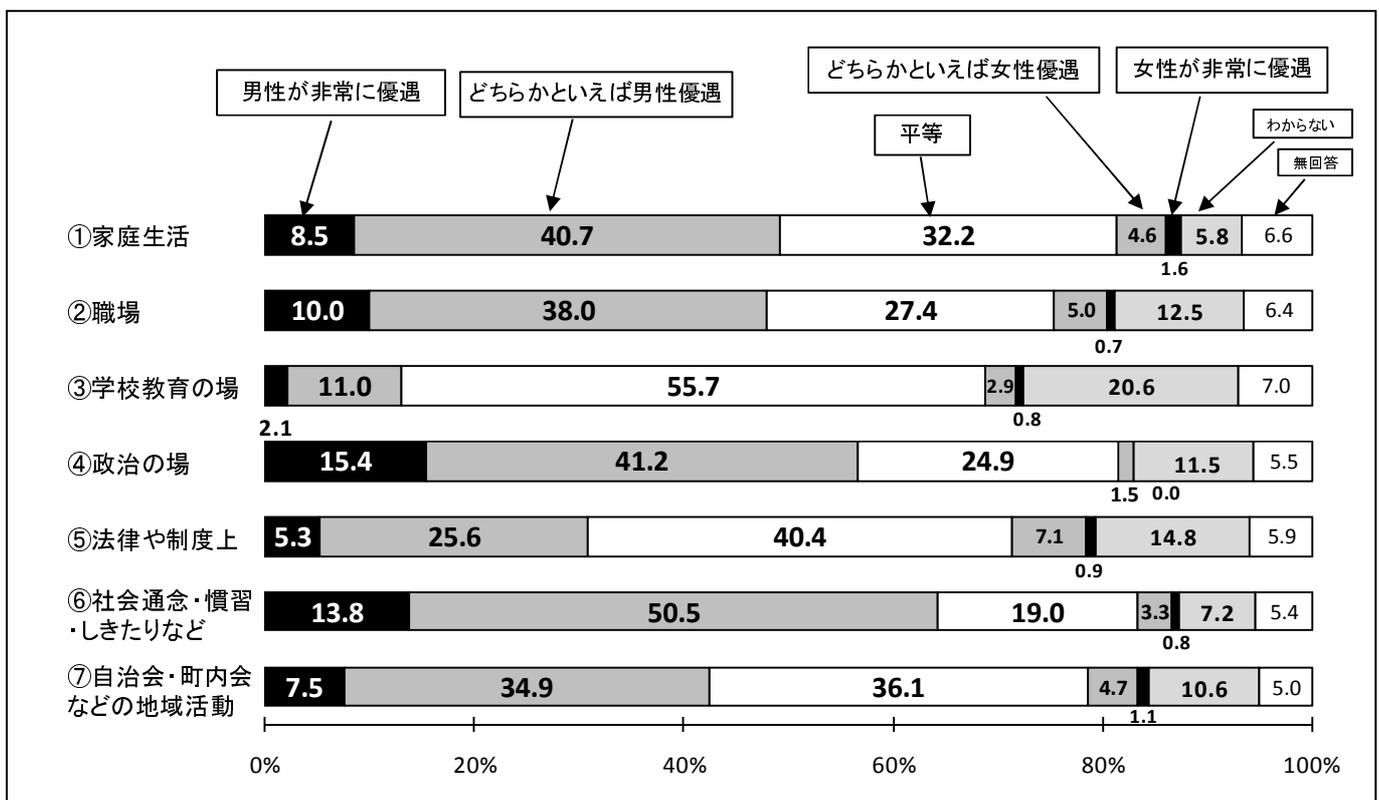
(①～⑦の分野それぞれについて、1～6の番号1つずつに○)

- ①家庭生活 ②職場 ③学校教育の場 ④政治の場 ⑤法律や制度上
⑥社会通念・慣習・しきたりなど ⑦自治会・町内会などの地域活動

7つの分野における男女の平等感を全体でみると、「平等」とした割合は「学校教育の場」が55.7%と最も多く、次いで「法律や制度上」が40.4%、「自治会・町内会などの地域活動」が36.1%、「家庭生活」が32.2%となっている。

男性が優遇（「男性が非常に優遇」＋「どちらかといえば男性優遇」）とした割合は、「社会通念・慣習・しきたりなど」が64.3%、「政治の場」が56.6%と半数を超え、「家庭生活」が49.2%、「職場」が48.0%となっている。

図 1-1 男女の平等感

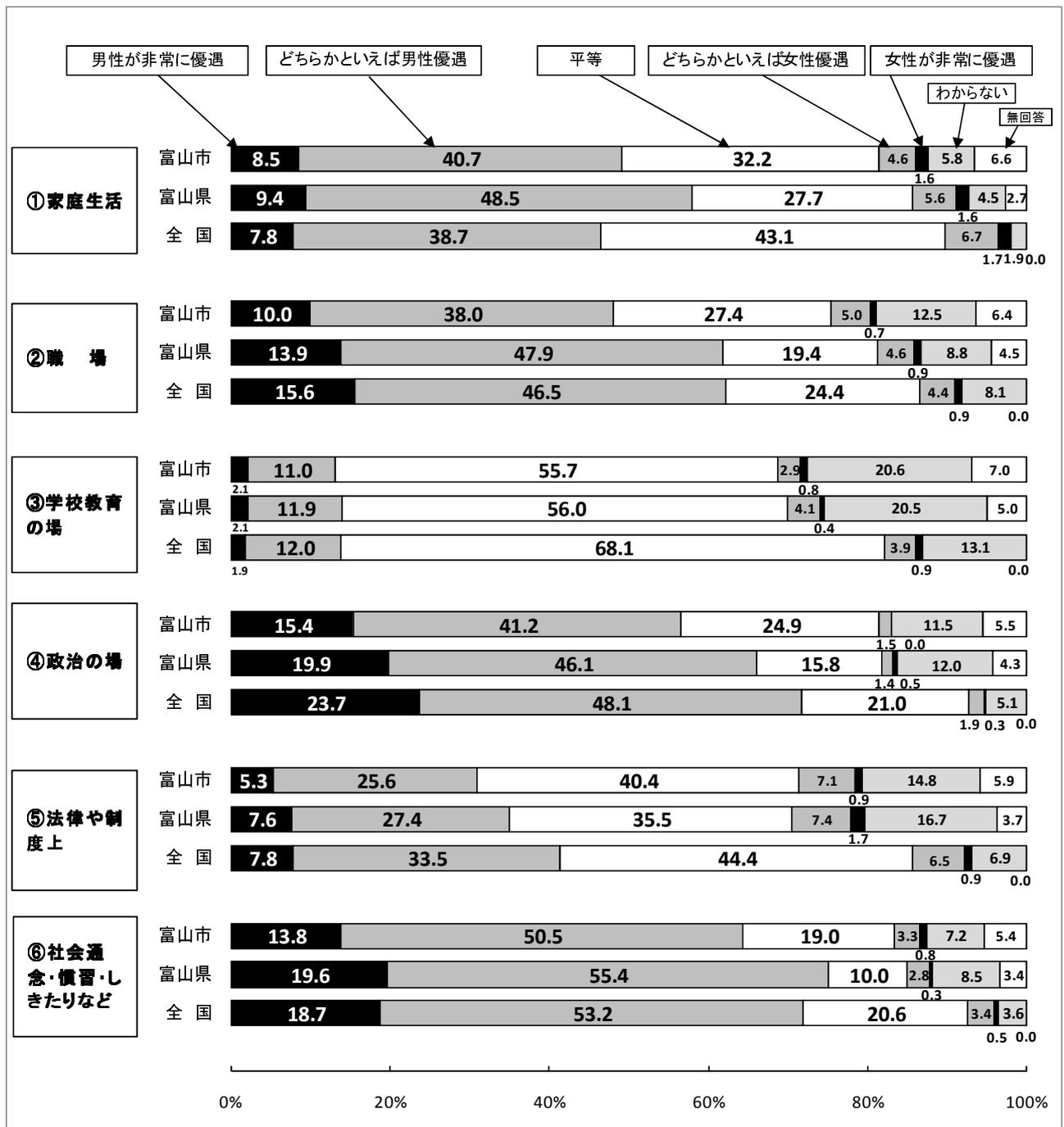


富山県、全国と比較してみる。(富山県、全国では「自治会・町内会などの地域活動」を除く6つの分野において同様の調査を行っている。)

富山市において最も平等感の高かった「学校教育の場」は、全国、富山県でも「平等」が最も多くなっているが、特に全国は68.1%と、富山市に比べて12.4ポイント多く、富山市の平等感は低い。

「職場」では男性が優遇とした割合が、富山市は48.0%であるが、富山県は61.8%、全国は62.1%とそれぞれ6割を超えている。「政治の場」では、富山市は男性が優遇とした割合が56.6%と、7つの分野のうち2番目に高い分野であるが、富山県、全国でのその割合はそれぞれ66.0%、71.8%と富山市を大きく上回っており、富山市は男性優遇がやや少ない。

図 1-2 男女の平等感（全国、富山県との比較）



※富山市：N=911 富山県：N=1,016 全国：N=3,240
次に、7つの分野ごとに見ていく。

①家庭生活

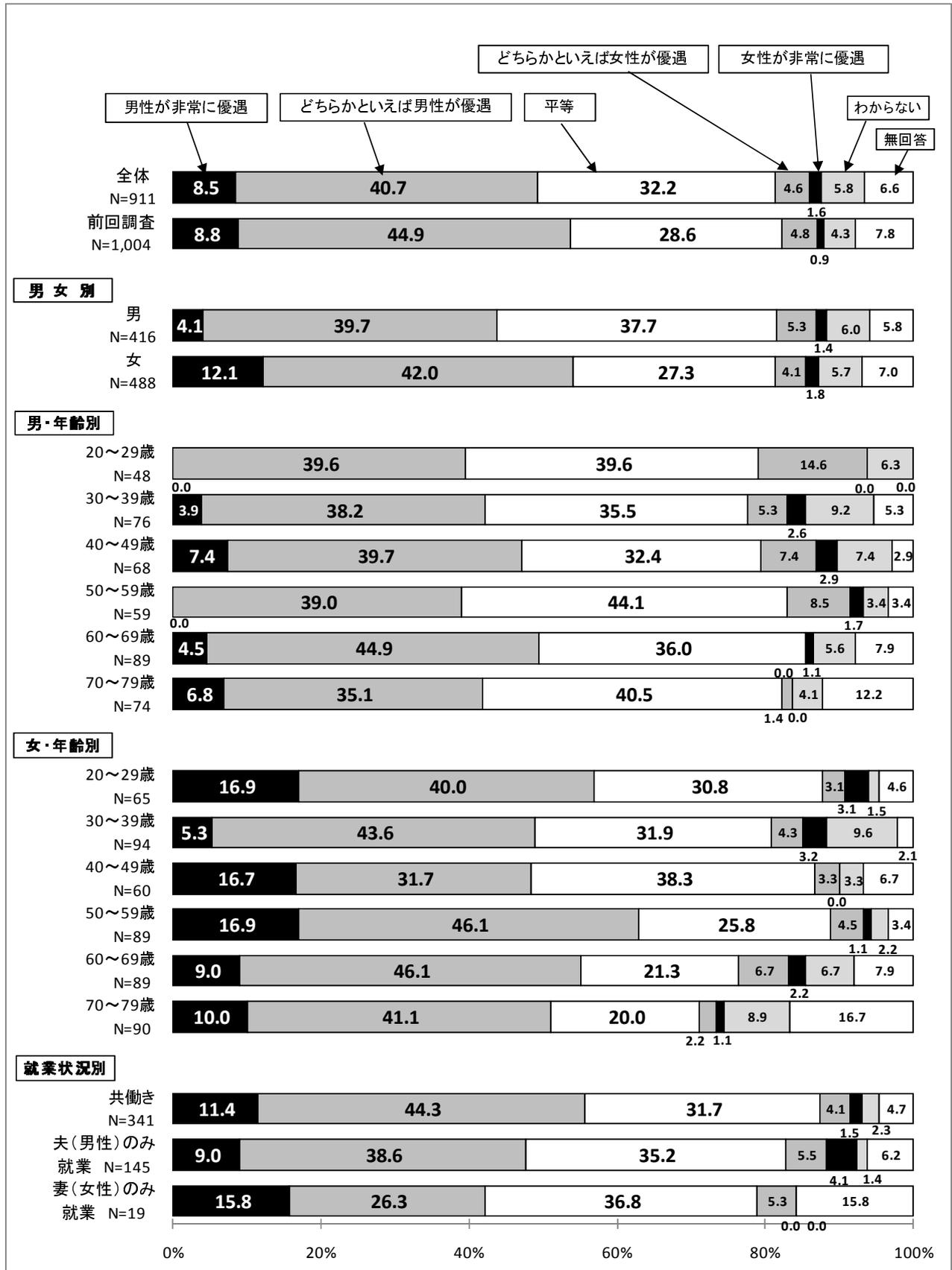
家庭生活における平等感をみると、「平等」は32.2%、男性が優遇（「男性が非常に優遇」＋「どちらかといえば男性優遇」）とした割合が49.2%、女性が優遇（「女性が非常に優遇」＋「どちらかといえば女性優遇」）とした割合が6.2%となった。

前回調査（平成17年）と比較すると、「平等」が3.6ポイント増加し、男性が優遇とした割合が4.5ポイント減少した。

男性は「平等」が37.7%と女性を10.4ポイント上回っている。女性は男性が優遇とした割合が54.1%と、男性に比べて10.3ポイント多い。特に女性の「50歳代」は男性が優遇とした割合が63.0%と、他の年齢層に比べて多くなっている。

また、既婚者について、夫婦の働き方別にみると、「共働き」の人は男性が優遇とした割合が多い。

図 1-3 男女の平等感（家庭生活）



②職場

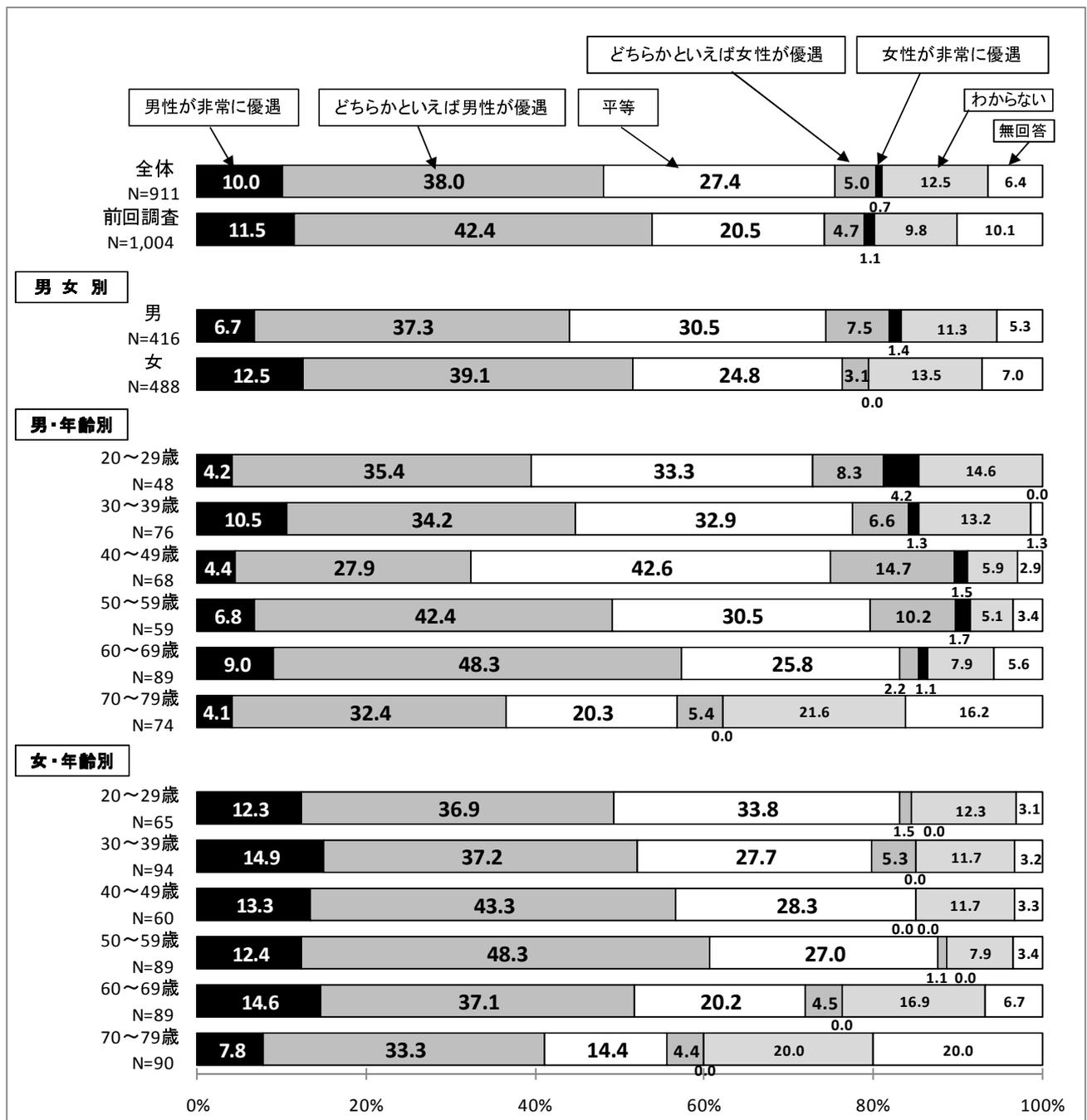
職場における平等感をみると、「平等」は27.4%、男性が優遇とした割合が48.0%、女性が優遇とした割合が5.7%となった。

前回調査と比較すると、「平等」が6.9ポイント増加し、男性が優遇とした割合が5.9ポイント減少した。

男女別では、男性は「平等」が30.5%と女性を5.7ポイント上回っている。女性は男性が優遇とした割合が51.6%と、男性に比べて7.6ポイント多い。

性別年齢別でみると、男性は「60歳代」が、女性は「50歳代」が、男性が優遇とした割合が多い。

図 1-4 男女の平等感（職場）



③学校教育の場

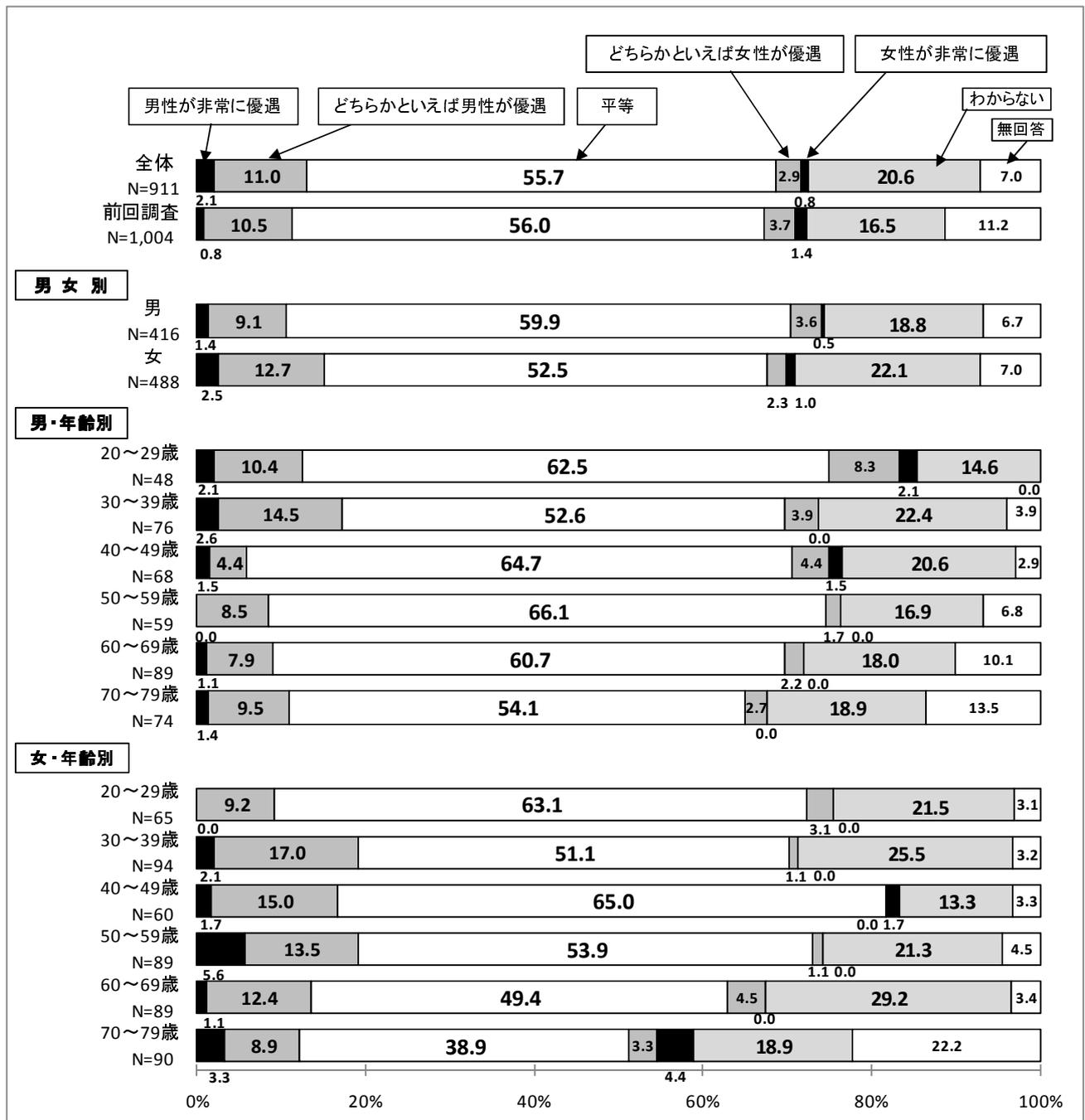
学校教育の場における平等感は7つの分野のうち、最も平等感が高い分野である。「平等」が55.7%と半数を超え、男性が優遇とした割合は13.1%、女性が優遇とした割合は3.7%となった。

前回調査と比較すると、ほぼ同様の傾向となった。

男女別では、男性の方が「平等」とした割合が多く59.9%と、女性を7.4ポイント上回っている。

性別年齢別でみると、男性の「20歳代」と「40～60歳代」、女性の「20歳代」「40歳代」で「平等」が6割を超えている。

図 1-5 男女の平等感（学校教育の場）



④政治の場

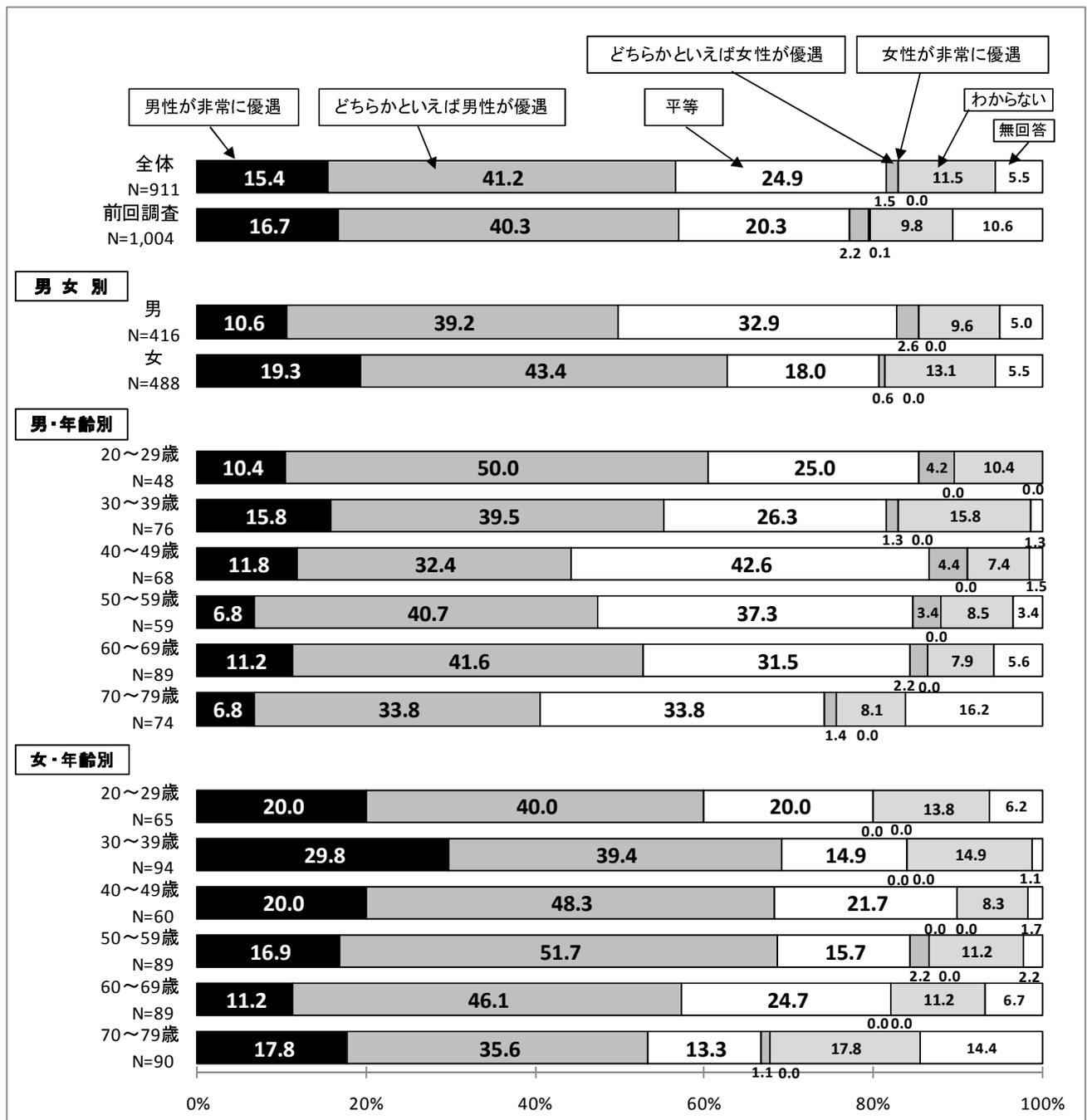
政治の場における平等感をみると、「平等」は24.9%、男性が優遇とした割合が56.6%、女性が優遇とした割合が1.5%となった。

前回調査と比較すると、ほぼ同様の傾向となった。

男女別では、男性は「平等」が32.9%と女性を14.9ポイント上回っている。女性は男性が優遇とした割合が62.7%と、男性に比べて12.9ポイント多い。

性別年齢別でみると、男性の「40歳代」「50歳代」は「平等」がそれぞれ42.6%、37.3%と他の年齢層に比べて多い。女性の「30～50歳代」は男性が優遇とした割合が約7割を占める。

図 1-6 男女の平等感（政治の場）



⑤法律や制度上

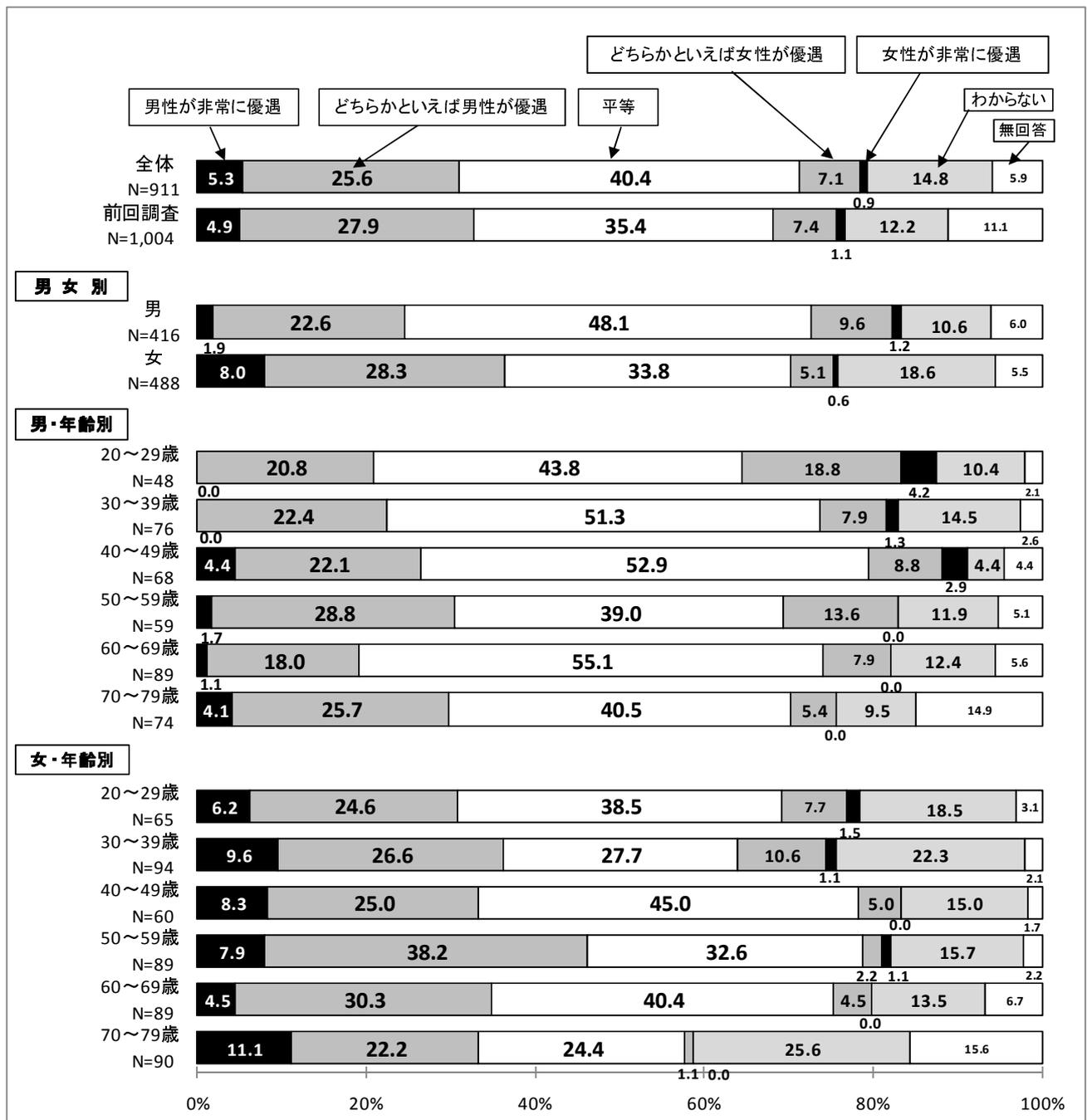
法律や制度上における平等感は「平等」が40.4%と、7つの分野のうち、2番目に平等感が高い分野である。男性が優遇とした割合は30.9%、女性が優遇とした割合は8.0%となった。

前回調査と比較すると、「平等」が5.0ポイント増加し、男性が優遇とした割合が1.9ポイント減少した。

男女別では、男性は「平等」が48.1%と女性を14.3ポイント上回っている。女性は男性が優遇とした割合が36.3%と、男性に比べて11.8ポイント多い。

性別年齢別でみると、女性の「50歳代」で、特に男性が優遇とした割合が多く46.1%となっている。

図 1-7 男女の平等感（法律や制度上）



⑥社会通念・慣習・しきたりなど

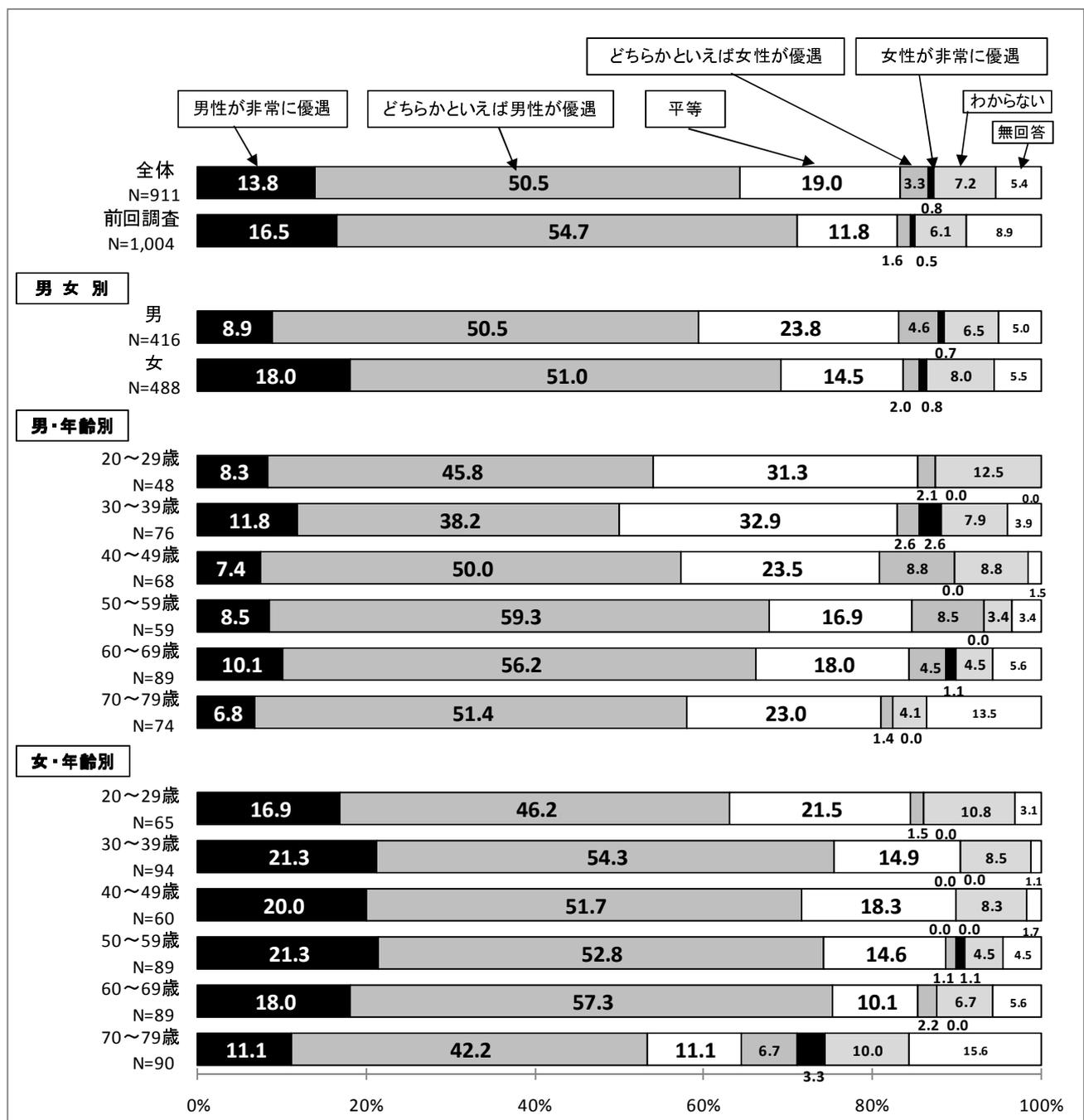
社会通念・慣習・しきたりなどにおける平等感は「平等」が19.0%と、7つの分野のうち最も平等感が低い分野である。男性が優遇とした割合は64.3%、女性が優遇とした割合は4.1%となった。

前回調査と比較すると、「平等」が7.2ポイント増加し、男性が優遇とした割合が6.9ポイント減少した。

男女別では、男性は「平等」が23.8%と女性を9.3ポイント上回っている。女性は男性が優遇とした割合が69.0%と、男性に比べて9.6ポイント多い。

性別年齢別でみると、男性が優遇とした割合は、男性は「50～60歳代」で約7割、女性は「30～60歳代」で7割を超えて多くなっている。男性の「20～30歳代」は「平等」が3割を占める。

図 1-8 男女の平等感（社会通念・慣習・しきたりなど）



⑦自治会・町内会などの地域活動

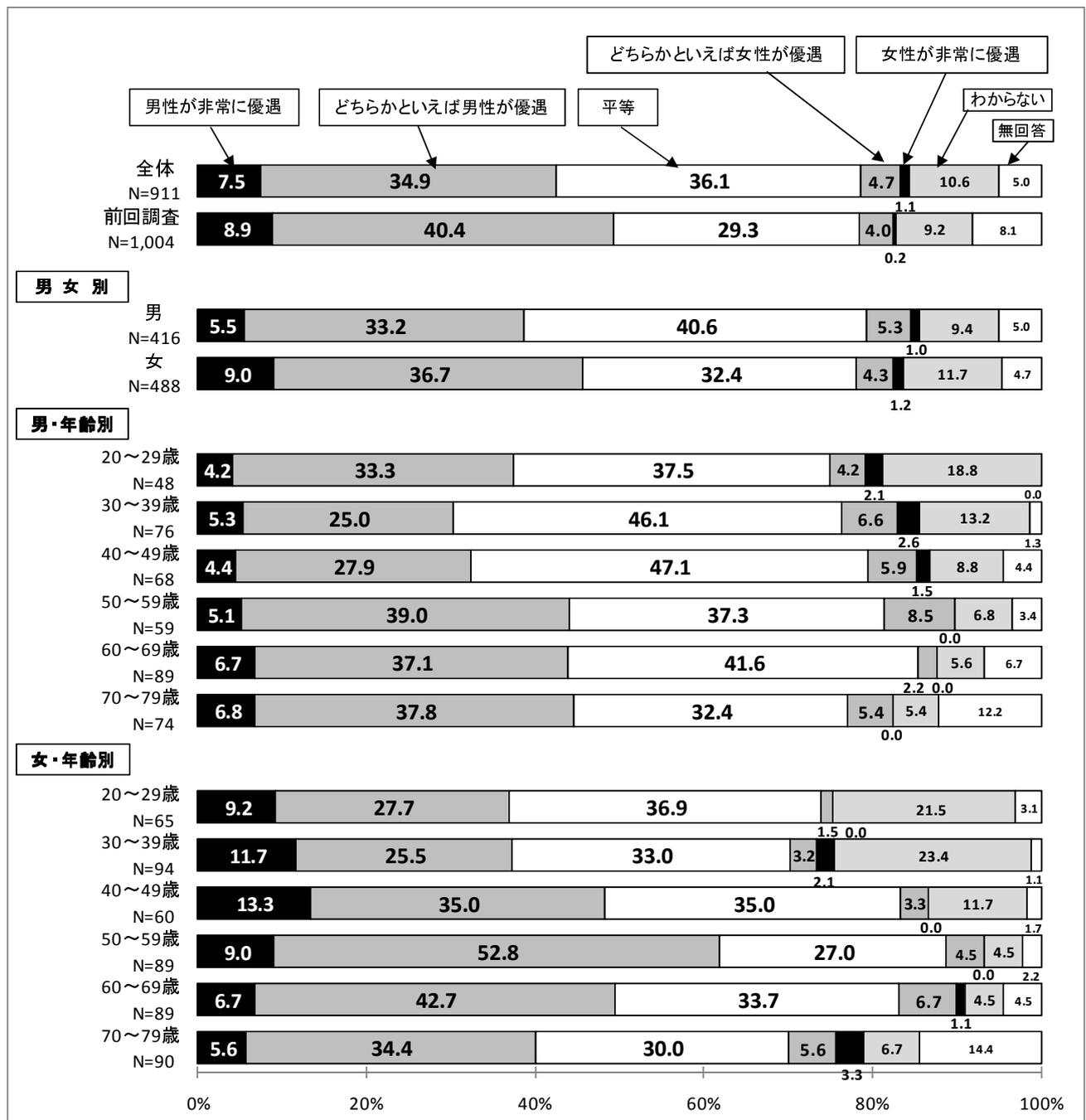
自治会・町内会などの地域活動における平等感をみると、「平等」は36.1%、男性が優遇とした割合が42.4%、女性が優遇とした割合が5.8%となった。

前回調査と比較すると、「平等」が6.8ポイント増加し、男性が優遇とした割合が6.5ポイント減少した。

男女別では、男性は「平等」が40.6%と女性に比べて8.2ポイント多い。女性は男性が優遇とした割合が45.7%と、男性を7ポイント上回っている。

性別年齢別でみると、男性は「30～40歳代」は「平等」が46～47%と、「男性優遇」を上回っている。女性は「50歳代」で男性が優遇とした割合が6割を超えて他の年齢層に比べて多くなっている。

図 1-9 男女の平等感（自治会・町内会などの地域活動）



(2) 仕事と家庭における男女の役割について

問2 「男性は仕事、女性は家事・育児」という考え方についてどう思いますか。(1つだけに○)

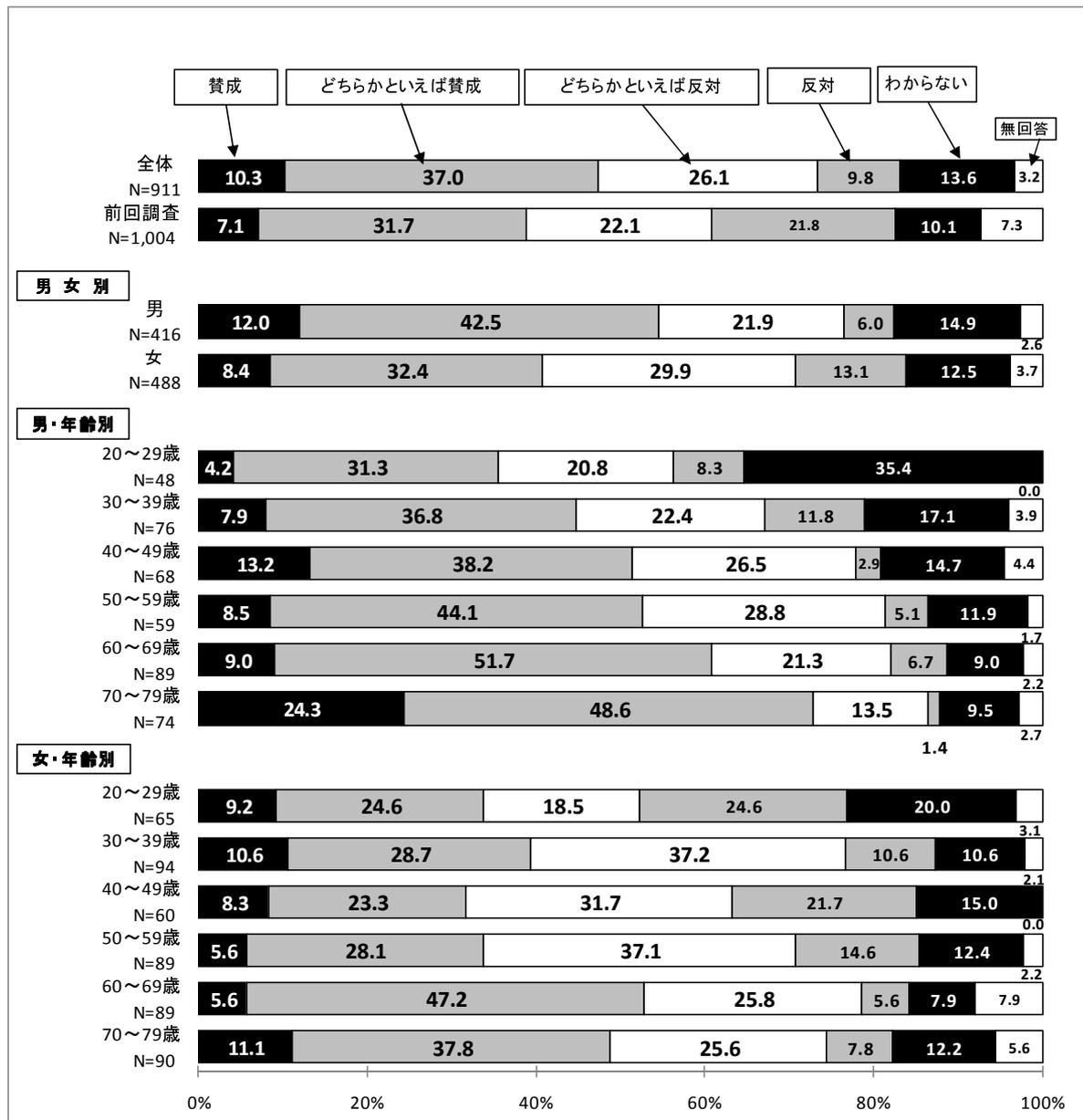
「男性は仕事、女性は家事・育児」という考え方について、「賛成」が10.3%、「どちらかといえば賛成」が37.0%と、合わせて47.3%が賛成としており、反対とした割合35.9%（「反対」9.8%+「どちらかといえば反対」26.1%）を11.4ポイント上回っている。

前回調査と比較すると、賛成とした割合が8.5ポイント増加し、「反対」が8.0ポイント減少した。

男女別では、男性は賛成とした割合は54.5%と、女性に比べ13.7ポイント多い。女性は反対が43.0%と、男性を15.1ポイント上回っている。

性別年齢別でみると、男性は年齢層が高いほど賛成とした割合が多く、「60歳代」が60.7%、「70歳以上」が72.9%となっている。女性は「40～50歳代」で「反対」が5割を超えている。

図 1-10 「男性は仕事、女性は家事・育児」という考え方について



※前回調査は、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方に対する回答

富山県、全国と比較してみる。

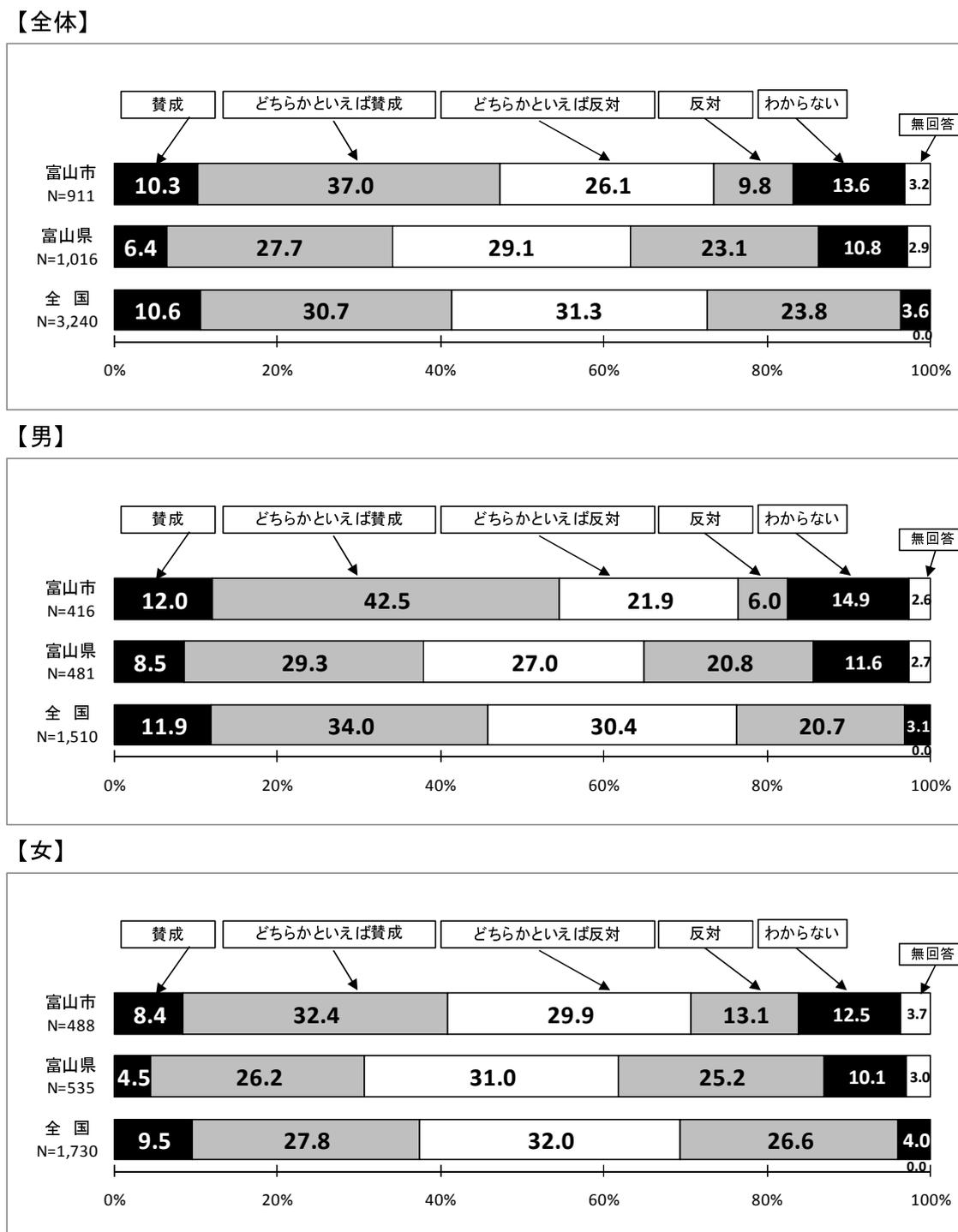
「賛成」とした割合は、富山市 47.3%、富山県 34.1%、全国 41.3%となり、富山市は富山県に比べて 13.2 ポイント、全国に比べて 6 ポイント多い。

「反対」とした割合は、富山市 35.9%、富山県 52.2%、全国 55.1%となっている。

男女別でも、富山市は富山県、全国に比べて「賛成」とした割合が多い。

富山市は固定的性別役割分担意識が強いと思われる。

図 1-11 「男性は仕事、女性は家事・育児」という考え方について（全国、富山県との比較）



※富山県、全国の数値は、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方に対する回答

(3) 男女共同参画社会の実現を目指した取り組みの認知状況

問3 男女共同参画社会の実現を目指し、様々な取り組みがなされていますが、あなたは、次のことについてどの程度知っていますか。

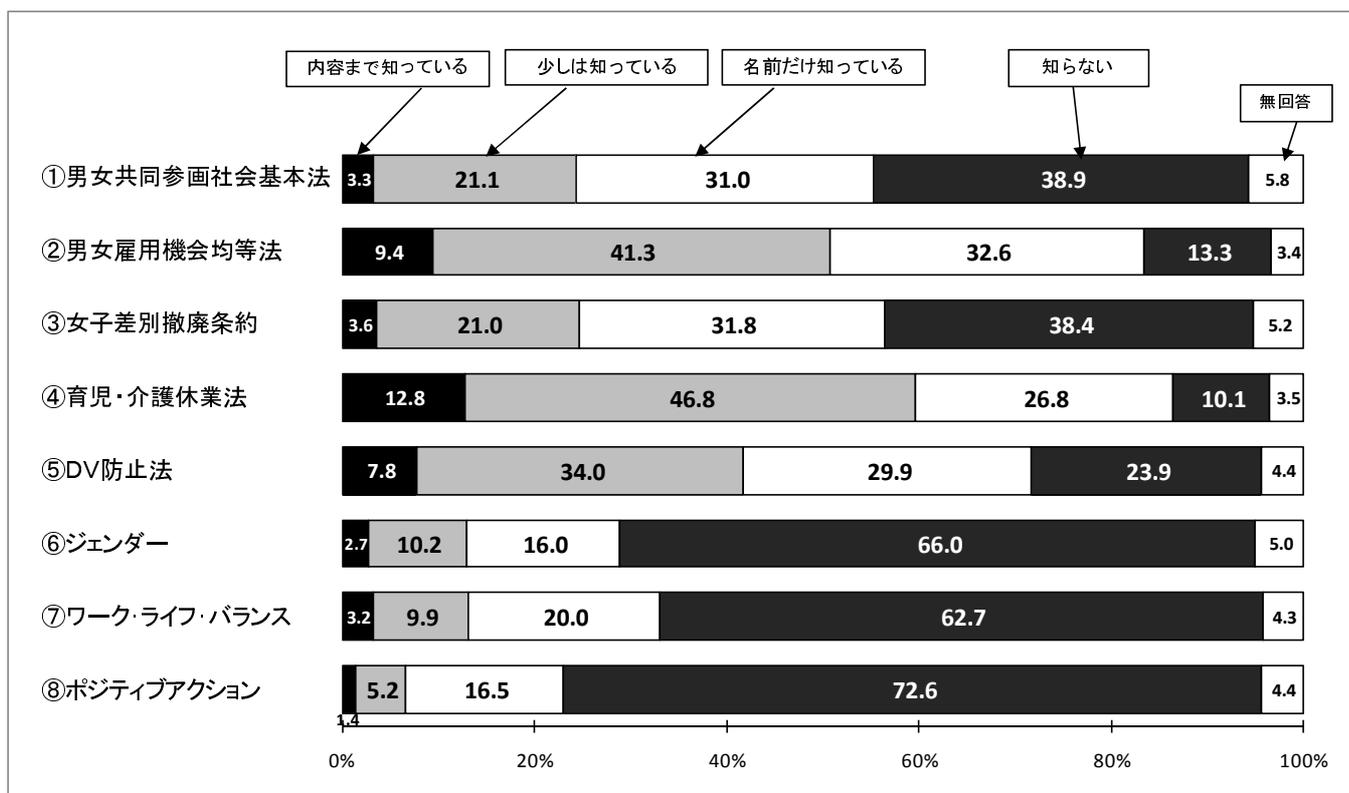
(①～⑧の取り組みそれぞれについて、1～4の番号1つずつに○)

- ①男女共同参画社会基本法 ②男女雇用機会均等法 ③女子差別撤廃条約
- ④育児・介護休業法 ⑤DV防止法 ⑥ジェンダー
- ⑦ワーク・ライフ・バランス ⑧ポジティブアクション

8つの取り組みの認知状況を全体で見ると、「知っている」とした割合（「内容まで知っている」＋「少しは知っている」）は、「育児・介護休業法」が最も多く59.6%、「男女雇用機会均等法」が50.7%、「DV防止法」が41.8%となっている。「ジェンダー」「ワーク・ライフ・バランス」「ポジティブアクション」については、「知らない」が6割を超えている。

男女共同参画社会の形成に必要な法制度等の理解促進のために、周知を図っていく必要がある。

図 1-12 男女共同参画社会の実現を目指した取り組みの認知状況



※③女子差別撤廃条約＝「女子に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条約」の略称。

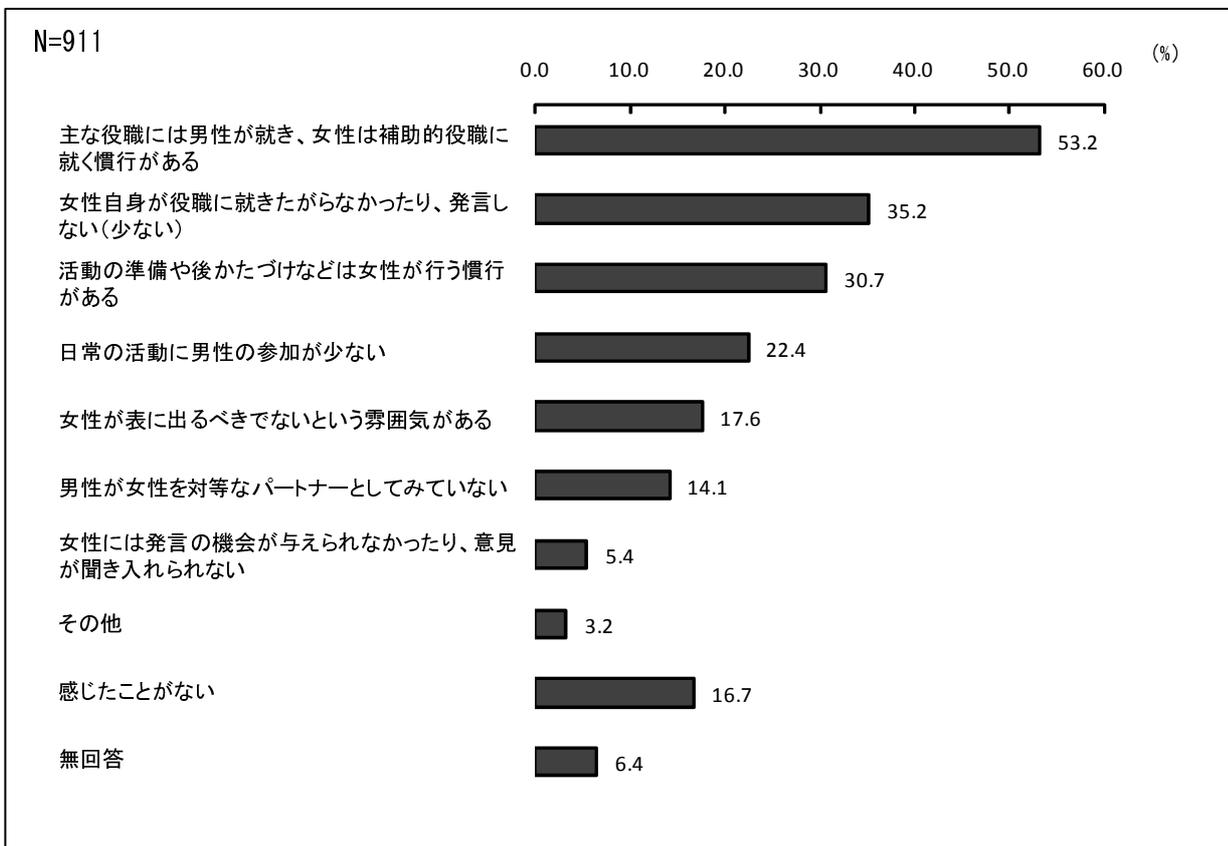
(4) 地域活動での男女の役割分担について

問4 地域の活動（自治会、町内会、PTA など）で、男女の役割分担などについて次のように感じたことがありますか。（いくつでも○）

地域活動での男女の役割分担については、「主な役職には男性が就き、女性は補助的役職に就く慣行がある」が53.2%と最も多く、次いで「女性自身が役職に就きたがらなかったり、発言しない(少ない)」が35.2%、「活動の準備や後かたづけなどは女性が行う慣行がある」が30.7%となっている。

慣行を是正するためには、女性自身が地域活動に積極的に関わっていくよう自覚を促していくとともに、地域全体で見直しができるよう啓発をしていくことが大切であると思われる。

図 1-13 地域活動での男女の役割分担について（複数回答）



性別年齢別でみると、男性の「50 歳代」「70 歳代以上」は「女性自身が役職に就きたがらなかったり、発言しない（少ない）」が約 5 割と、他の年齢層に比べて多い。男性の「20 歳代」は「感じたことがない」が 45.8%と多くなっている。

女性の「50 歳代」は「活動の準備や後かたづけなどは女性が行う慣行がある」が 43.8%となっている。

表 1 地域活動での男女の役割分担について（複数回答） (%)

		行女主 性が ある 性 は 補 助 に 的 は 役 男 性 が 就 き 慣 、	（ら 少 な い ） 女 性 自 身 が 役 職 に 就 き な い が	ど は 活 動 の 準 備 や 後 か た づ け な い が	少 な い 日 常 の 活 動 に 男 性 の 参 加 が	と 女 性 が 表 に 出 る べ き で な い と 女 性 が 表 に 出 る べ き で な い	ナ ー と 男 性 が 女 性 を 対 等 な パ ー ト と し て み て い な い	き ら 女 性 に は 発 言 の 機 会 が 与 え ら れ な か つ た り 、 意 見 が 与 え ら れ な い	そ の 他	感 じ た こ と が な い	無 回 答
性別	男 N=416	55.0	35.8	29.1	17.1	15.4	10.3	4.3	2.2	19.5	5.8
	女 N=488	52.3	35.2	32.6	27.0	19.7	17.4	6.4	4.1	13.5	7.0
性別 年齢別	男:20~29歳 N=48	37.5	16.7	12.5	10.4	8.3	10.4	2.1	2.1	45.8	6.3
	30~39歳 N=76	48.7	30.3	28.9	18.4	13.2	11.8	5.3	3.9	23.7	5.3
	40~49歳 N=68	51.5	26.5	29.4	11.8	13.2	10.3	2.9	-	20.6	7.4
	50~59歳 N=59	61.0	50.8	28.8	22.0	22.0	10.2	5.1	1.7	10.2	5.1
	60~69歳 N=89	64.0	38.2	32.6	21.3	11.2	11.2	5.6	1.1	9.0	5.6
	70~79歳 N=74	62.2	48.6	36.5	16.2	23.0	8.1	4.1	4.1	16.2	5.4
	女:20~29歳 N=65	47.7	23.1	30.8	24.6	20.0	21.5	9.2	3.1	20.0	6.2
	30~39歳 N=94	43.6	36.2	29.8	22.3	13.8	17.0	4.3	10.6	19.1	3.2
	40~49歳 N=60	48.3	28.3	31.7	33.3	26.7	10.0	8.3	3.3	18.3	8.3
	50~59歳 N=89	65.2	41.6	43.8	24.7	25.8	21.3	6.7	2.2	9.0	3.4
	60~69歳 N=89	52.8	41.6	30.3	30.3	18.0	16.9	3.4	-	6.7	6.7
	70~79歳 N=90	53.3	34.4	28.9	27.8	16.7	16.7	7.8	4.4	11.1	14.4

 = 最も多い数値

2. 家庭生活、育児、介護について

(1) 1日の時間の使い方

問5 あなたの一日における時間の使い方は、どれくらいですか。平日、休日それぞれについて、当てはまる時間数の番号を選んで1つずつに○をつけてください。

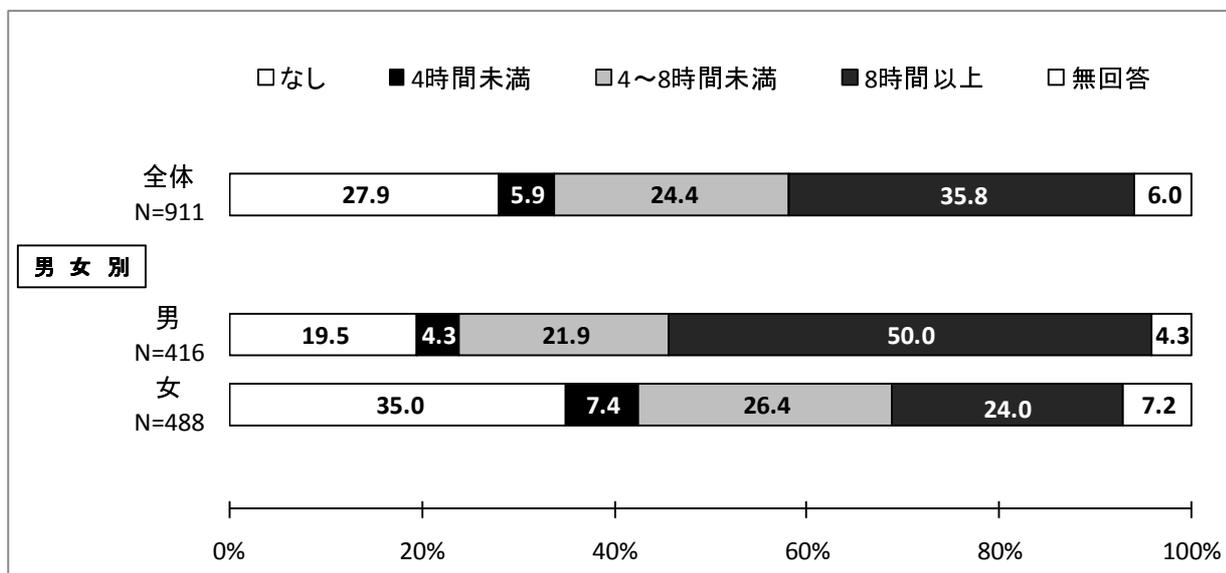
ここでは、回答者全員に、労働時間、家事時間、育児時間、介護時間、余暇時間について、平日と休日に分け、時間数を回答してもらっている。あくまでも、仕事をしている人の労働時間数、子どもを持つ人の育児時間数、介護の必要がある人がいる人の介護時間数ではない。よってそれぞれの時間の使い方において「なし」が多いが、たとえば、育児時間が「なし」としている人は子どもがいない、とは言えないため、回答者911人の全体でみていく。

①収入を得ている労働時間（通勤時間を含む）

収入を得ている労働時間は、全体で「8時間以上」が35.8%、「4～8時間未満」が24.4%、「4時間未満」が5.9%となっている。

男女別では、男性は「8時間以上」が50.0%、「4～8時間未満」が21.9%、女性は「8時間以上」が24.0%、「4～8時間未満」が26.4%となっている。

図 2-1 平日：収入を得ている労働時間（通勤時間を含む）



②家事の時間

家事時間は、平日は全体で「1時間未満」が26.1%、「1～2時間未満」が15.3%、「2～4時間未満」が23.1%、「4時間以上」が14.6%となっている。

男女別では、女性は「2～4時間未満」が38.9%、「4時間以上」が26.2%と、2時間以上が65.1%となっている。男性は「1時間未満」が42.3%、2時間以上は6.0%となっている。

休日は全体で「1時間未満」が24.9%、「1～2時間未満」が13.3%、「2～4時間未満」が26.2%、「4時間以上」が16.6%となっており、平日と大きな違いは見られない。

男女別では、女性は「2～4時間未満」が41.2%、「4時間以上」が28.3%と、2時間以上が69.5%と、平日を4.4ポイント上回っている。男性は「1時間未満」が41.3%、2時間以上は12.0%と、平日に比べて6.0ポイント多い。

図 2-2 家事の時間（平日）

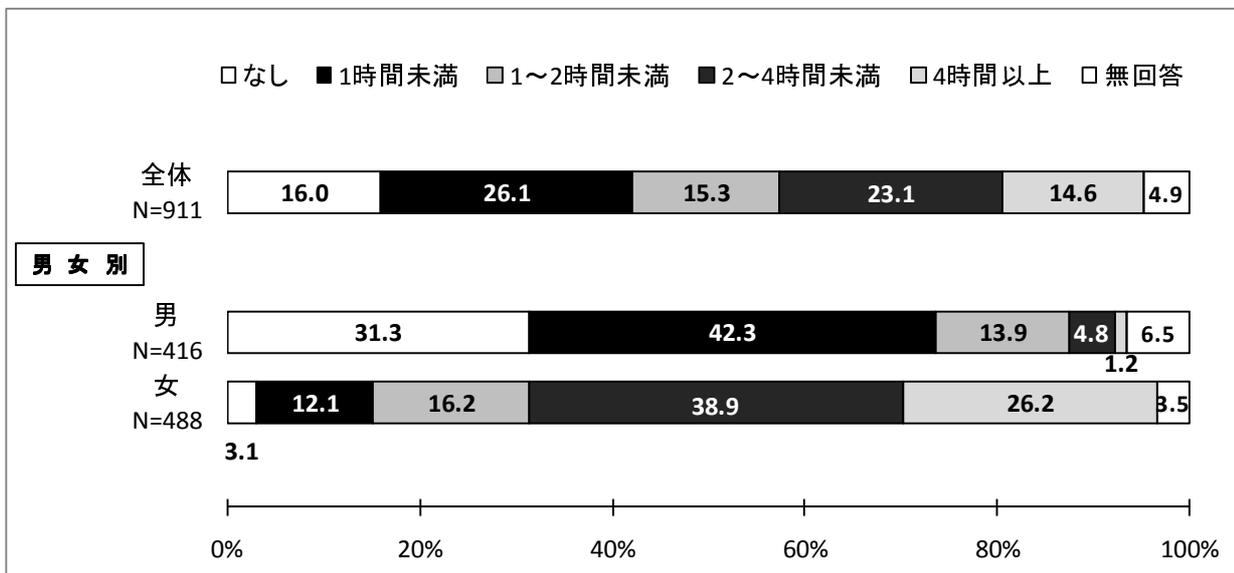
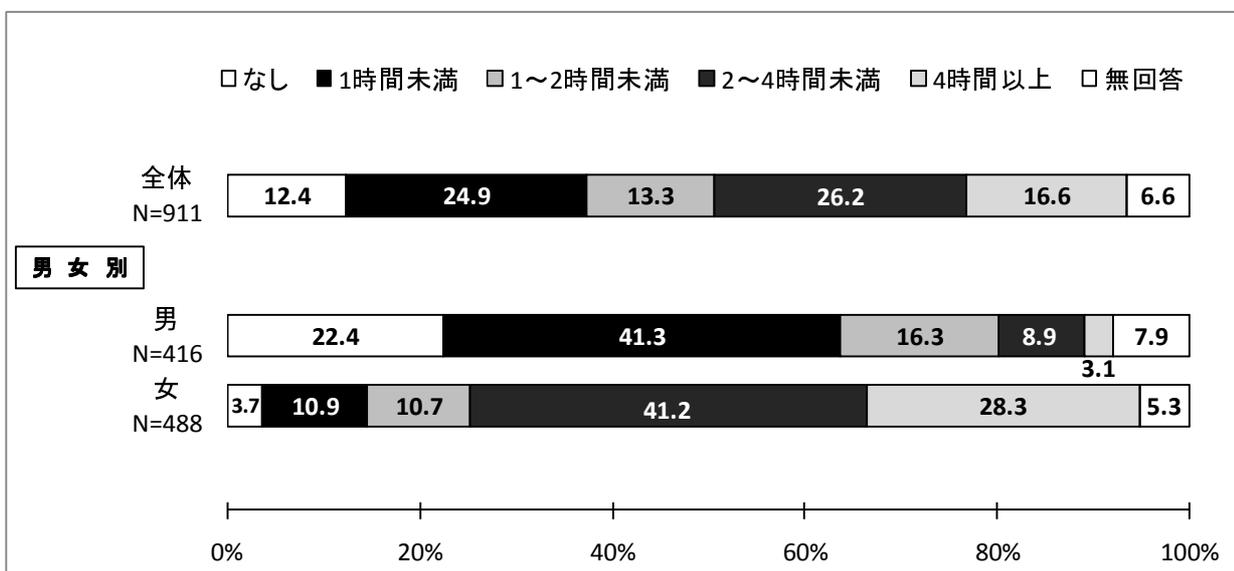


図 2-3 家事の時間（休日）



③育児の時間

育児時間は、平日は全体で「1時間未満」が6.3%、「1～2時間未満」が3.4%、「2～4時間未満」が4.5%、「4時間以上」が4.2%となっている。

男女別では、女性は「4時間以上」が7.6%、「2～4時間未満」が6.8%と、2時間以上が14.4%となっている。男性は「1時間未満」が8.9%、2時間以上は2.1%となっている。

休日は全体で「1時間未満」が4.2%、「1～2時間未満」が2.3%、「2～4時間未満」が4.9%、「4時間以上」が6.7%となっており、平日と大きな違いは見られない。

男女別では、女性は「4時間以上」が10.0%、「2～4時間未満」が5.5%と、2時間以上が15.5%と、平日を1.1ポイント上回っている。男性は「1時間未満」が4.8%、2時間以上は7.2%と、平日に比べて5.1ポイント多い。

図 2-4 育児の時間（平日）

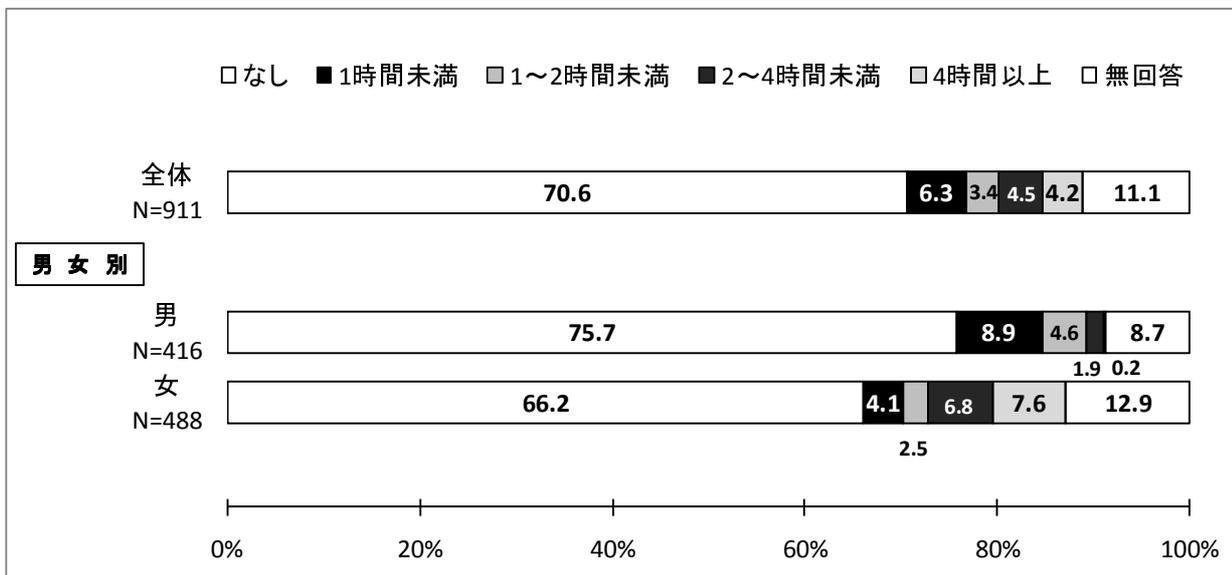
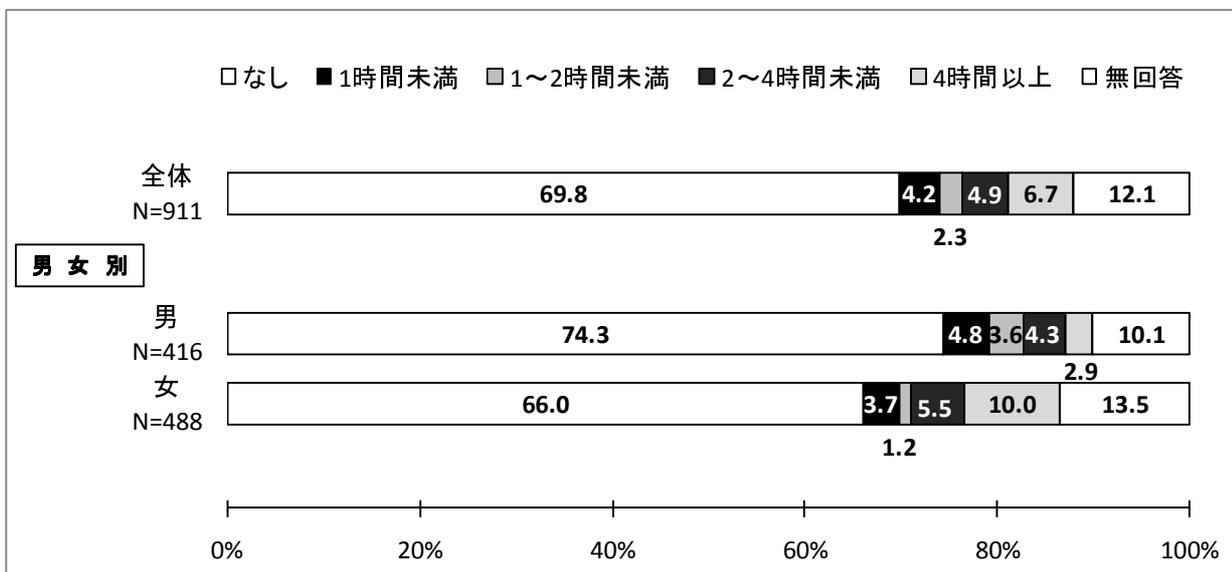


図 2-5 育児の時間（休日）



④介護の時間

介護時間は、平日は回答した割合全体で7.0%、男性は5.3%、女性は8.5%となり、女性の方がやや多い。

休日は回答した割合全体で6.7%、男性は6.0%、女性は7.3%となっている。

図 2-6 介護の時間（平日）

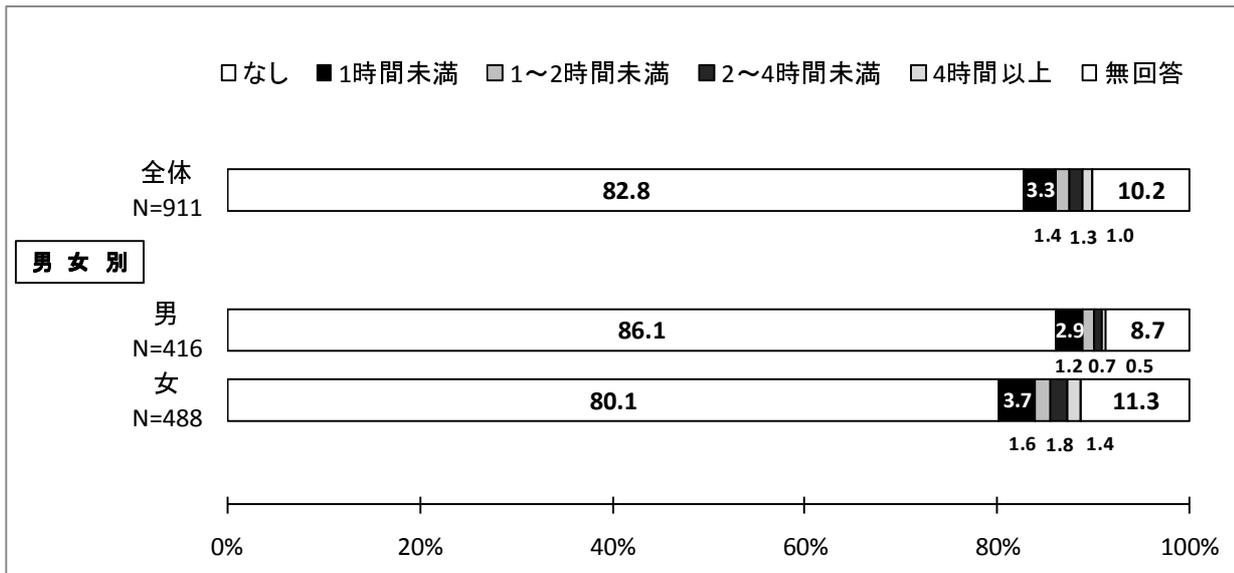
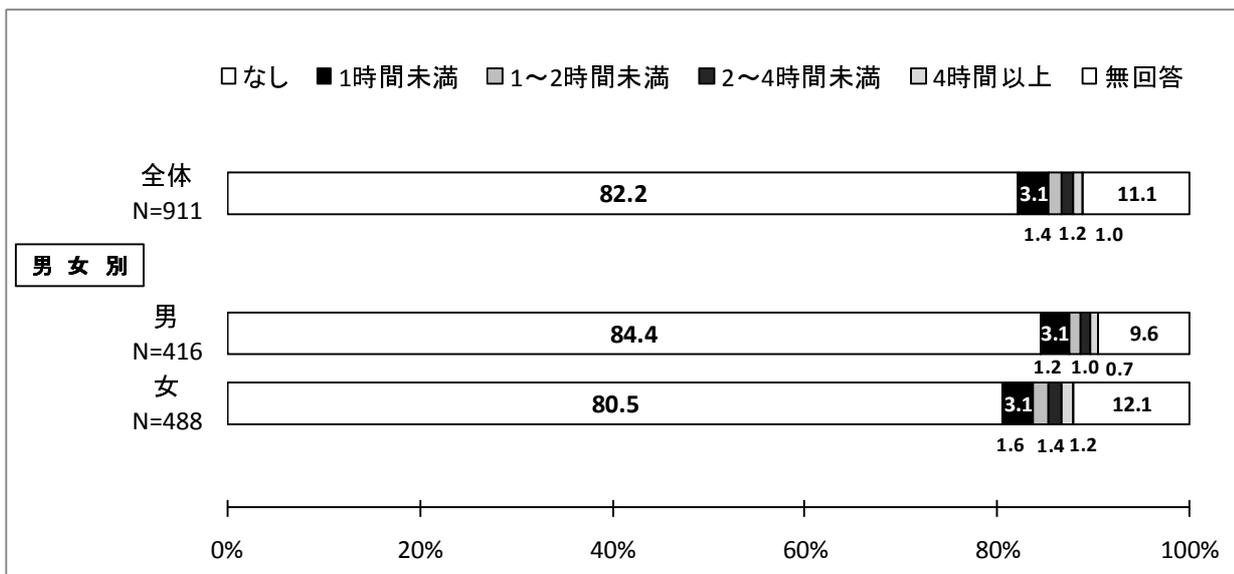


図 2-7 介護の時間（休日）



⑤余暇の時間（睡眠や食事の時間を除く）

余暇時間は、平日は全体で「1時間未満」が12.2%、「1～2時間未満」が20.9%、「2～4時間未満」が41.2%、「4時間以上」が18.7%となっている。

男女別では、男性は「2～4時間未満」が43.0%と、女性（39.5%）に比べて3.5ポイント多い。

休日は全体で「1時間未満」が5.4%、「1～2時間未満」が9.2%、「2～4時間未満」が34.7%、「4時間以上」が43.4%となっており、平日に比べて余暇時間は長い。

男女別では、男性は「4時間以上」が49.8%と女性（37.7%）に比べて12.1ポイント多い。

図 2-8 余暇の時間（平日）

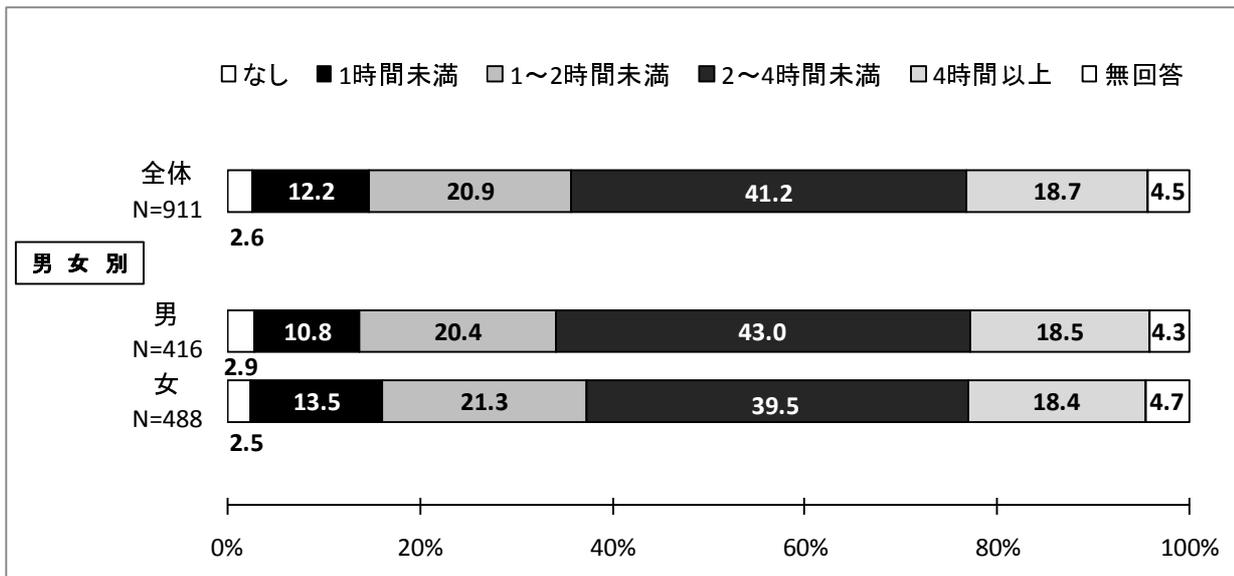
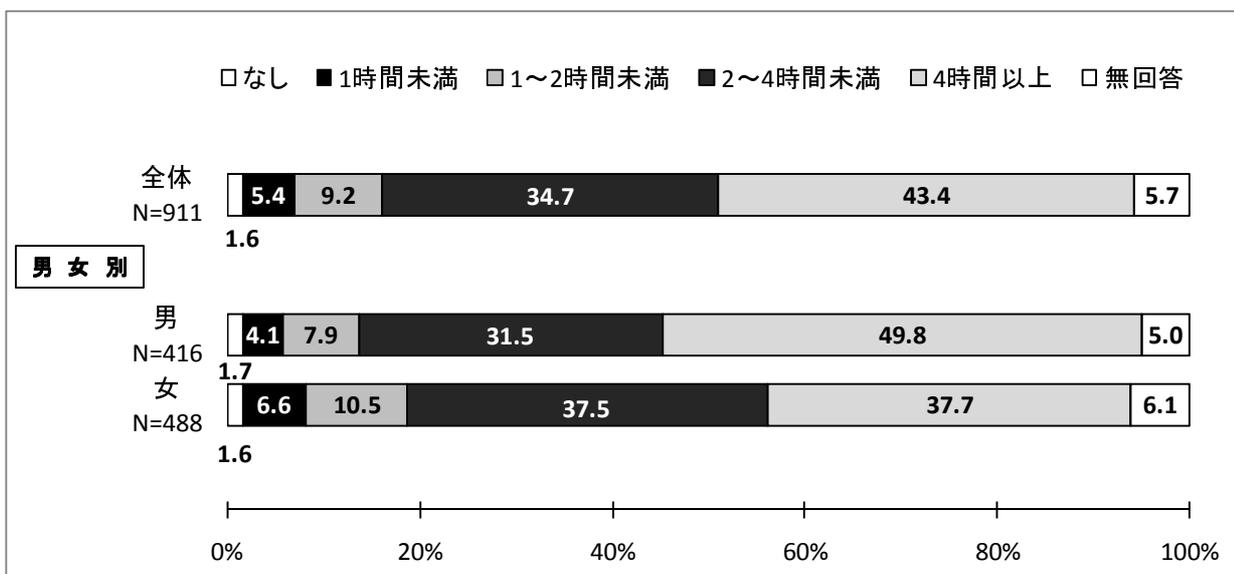


図 2-9 余暇の時間（休日）



(2) 「結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない」という考え方について

問6 「結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない」という考え方についてどう思いますか。
(1つだけに○)

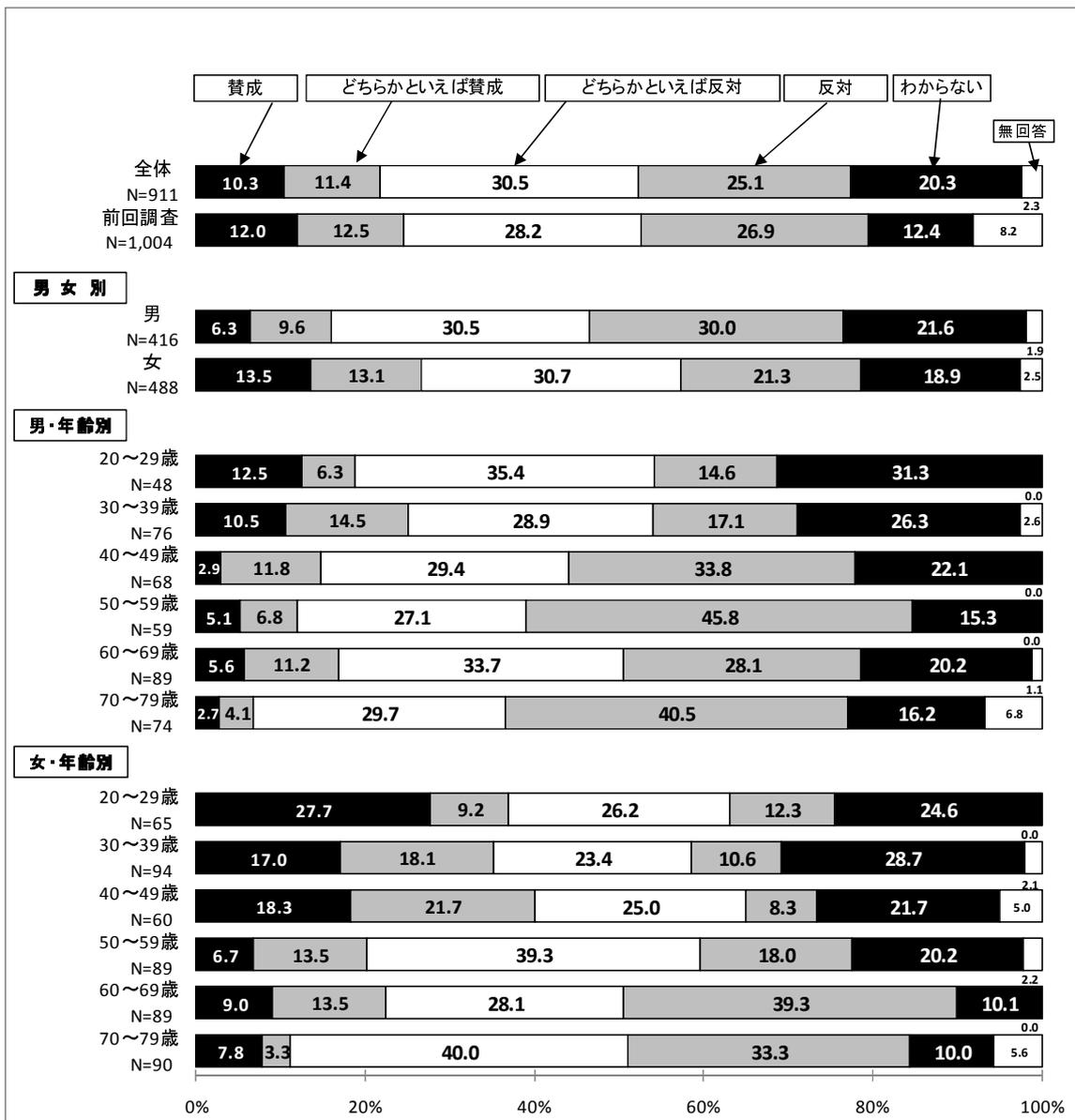
「結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない」という考え方については、「反対」が25.1%、「どちらかといえば反対」が30.5%と、合わせて55.6%が反対としており、賛成とした割合21.7%（「賛成」10.3%+「どちらかといえば賛成」11.4%）を大きく上回った。

前回調査と比べると、ほぼ同様の傾向にある。

男女別では、男性は反対とした割合が60.5%と6割を占め、女性（52.0%）を8.5ポイント上回っている。女性は賛成とした割合が26.6%と、男性（15.9%）に比べて10.7ポイント多い。

性別年齢別でみると、子どもを生み、育てる年代である女性の「40歳代以下」で賛成とした割合が35~40%みられ、特に「40歳代」では賛成とした割合が40.0%と、反対とした割合（33.3%）を6.7ポイント上回った。

図 2-10 「結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない」という考え方について

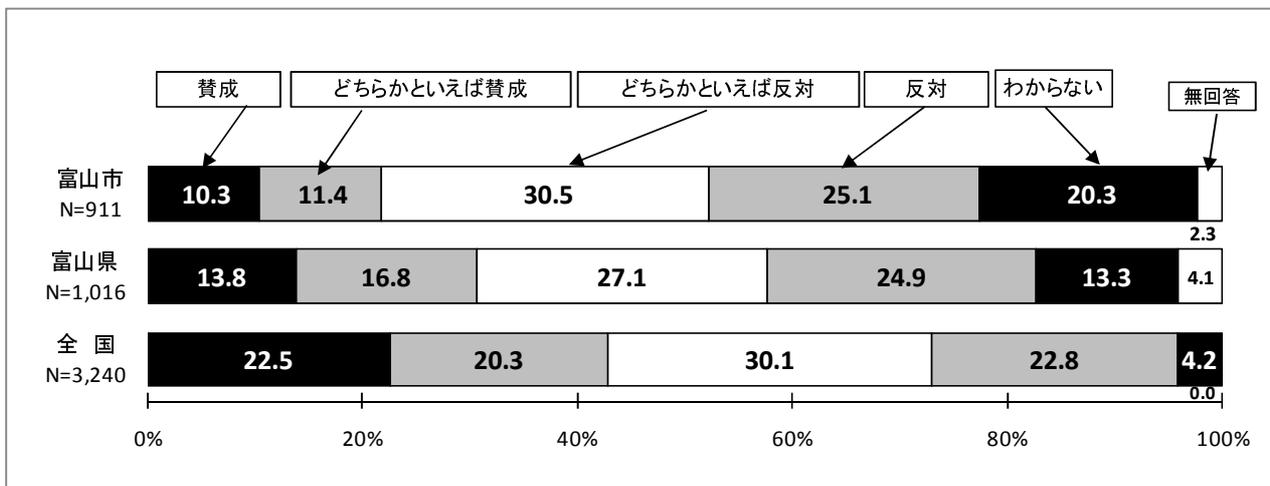


富山県、全国と比較してみる。

「賛成」とした割合は、富山市 21.7%、富山県 30.6%、全国 42.8%となり、富山市は富山県、全国に比べて 8.9 ポイント、21.1 ポイント少ない。

「反対」とした割合は、富山市 55.6%、富山県 52.0%、全国 52.9%と、やや富山市が多く、富山市は子どもを生み、育てることの重要性についての意識が高いと思われる。

図 2-11 「結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない」という考え方について（全国、富山県との比較）



(3) 理想の子供の数

問7 あなたの理想の（もちたいと思う）子供の数は何人ですか。また、あなたは実際には生涯に何人子どもを持つつもりですか（持ちましたか）。（それぞれ1つに○）
 (1) 理想の子どもの数 (2) 実際に持つつもりの子どもの数（実際に持った子どもの数）

理想とする子供の数は「2人」が46.7%と最も多く、「3人以上」が36.0%、「1人」が4.5%、「0人」が1.4%。実際に持つつもり（持った）の子供の数は「2人」が47.6%、「3人以上」が18.7%、「1人」が13.4%、「0人」が7.0%となっており、理想とする子供の数に比べて「3人以上」が大きく減少し、17.3ポイント少なく、「1人」「0人」がそれぞれ5.6ポイント、8.9ポイント多くなっている。

前回調査と比べても、男女別でもほぼ同様の傾向にある。

図 2-12 子供の数の理想と実際（前回調査との比較）

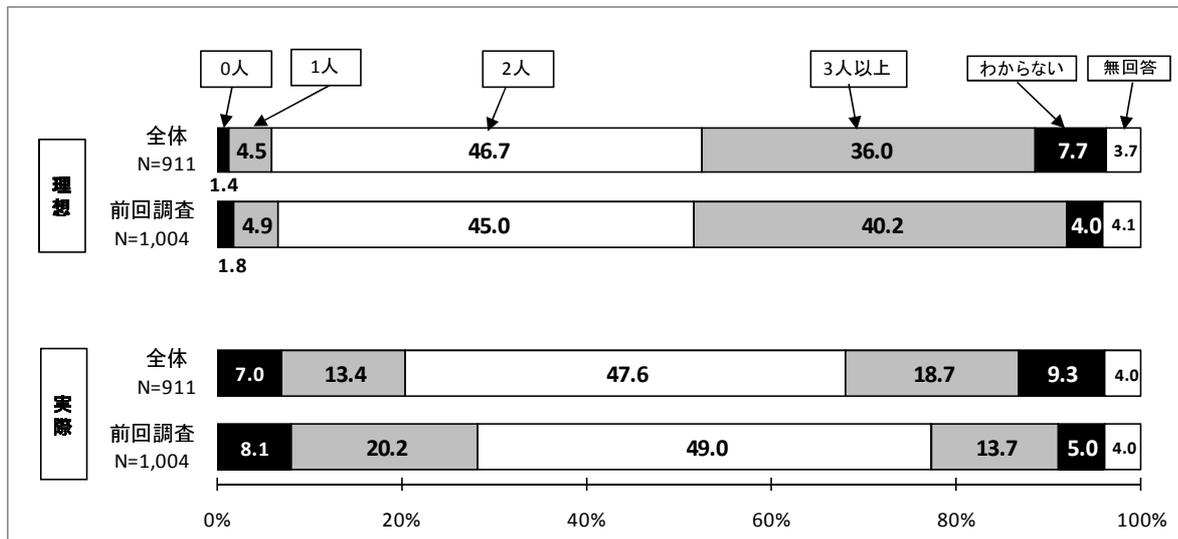
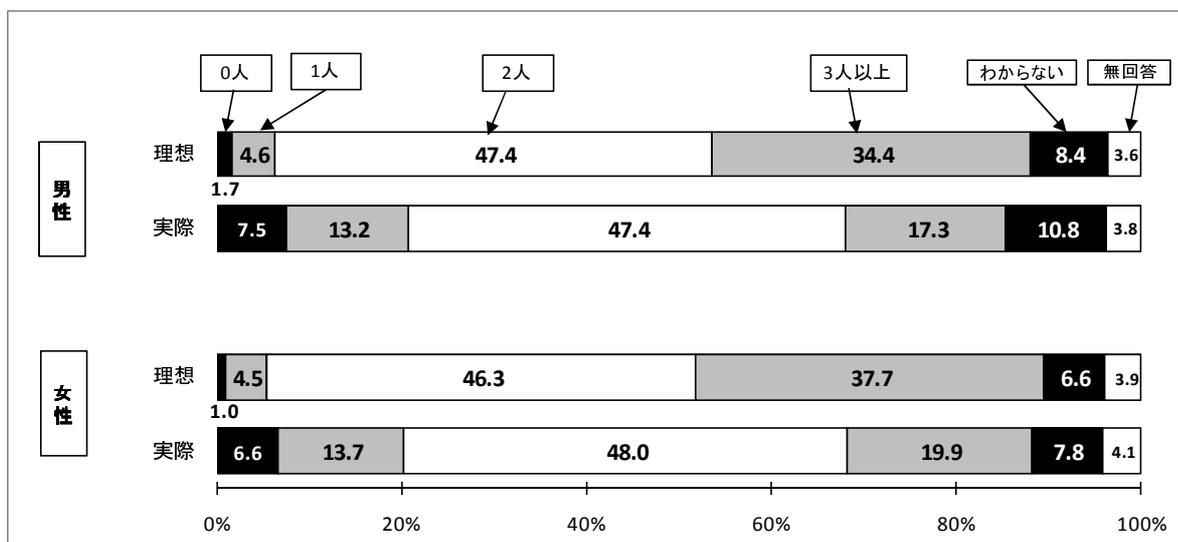


図 2-13 子供の数の理想と実際（男女別）



(4) 子育てと仕事について

問8 あなたは、子育てと仕事についてどのように考えていますか。(1つだけに○)

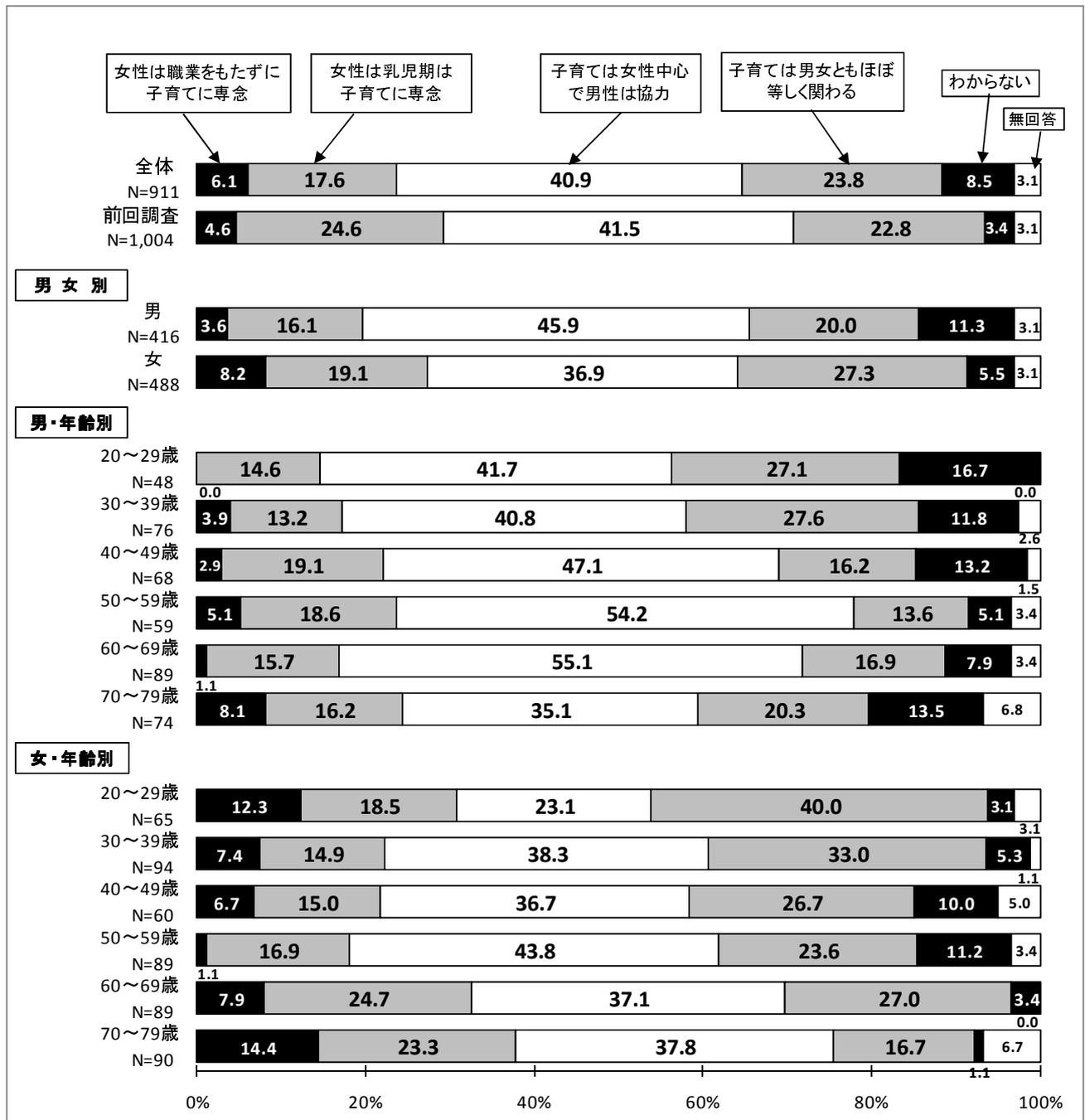
子育てと仕事については、「子育ては女性中心で男性はできるだけ協力し、女性を働きやすくする」が最も多く 40.9%、「子育ては女性にも男性にも重要なことだから、男女ともほぼ等しく関わる」が 23.8%、「女性は育児休暇制度などを活用し、乳児期は子育てに専念し、それ以降は子育てと仕事を両立させる」が 17.6%、「子育ては女性の仕事だから、女性は職業をもたずに子育てに専念する」が 6.1% となっている。

前回調査と比べると、「女性は育児休暇制度などを活用し、乳児期は子育てに専念し、それ以降は子育てと仕事を両立させる」が 7.0 ポイント減少している。「子育ては女性の仕事だから、女性は職業をもたずに子育てに専念する」が若干ではあるが増えている。

男女別では、女性は「子育ては女性にも男性にも重要なことだから、男女ともほぼ等しく関わる」が 27.3%と、男性 (20.0%) を 7.3 ポイント上回っている。男性は「子育ては女性中心で男性はできるだけ協力し、女性を働きやすくする」が 45.9%と、女性 (36.9%) に比べ 9 ポイント多い。

性別年齢別でみると、特に子育てに関わる女性の「20～30 歳代」で「子育ては女性にも男性にも重要なことだから、男女ともほぼ等しく関わる」が多い。また、「20 歳代」「70 歳以上」で「子育ては女性の仕事だから、女性は職業をもたずに子育てに専念する」が 12～15%みられ、他の年齢層に比べて多くなっている。

図 2-14 子育てと仕事について



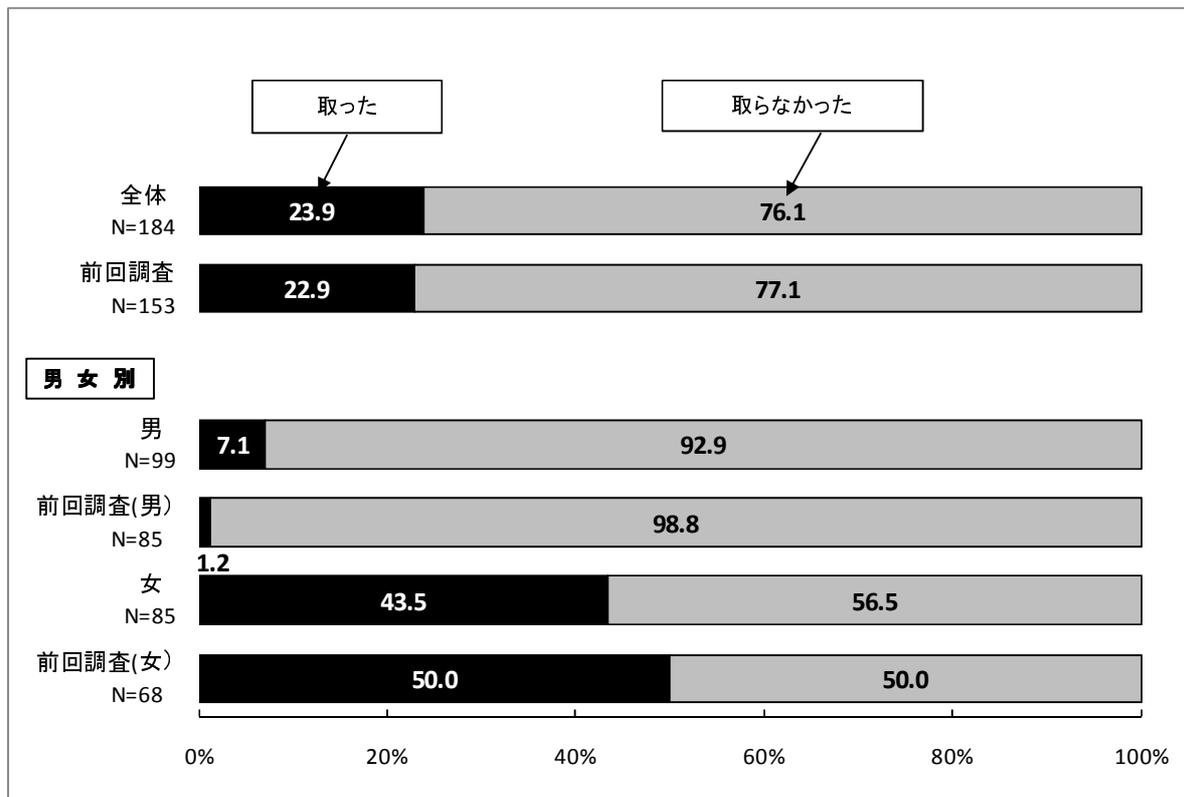
(5) 育児休業の取得状況

問9 「育児・介護休業法」が施行された平成4年4月以降にあなた又は配偶者が出産され、その時期に職場に在籍されていた方にお聞きます。
 子どもが乳児（0歳）のとき、あなたは育児休業※を取りましたか。（1つだけに○）
 （2人以上おられる家庭は、末子についてお答えください）

育児休業を「取った」は23.9%と、前回調査とほぼ変わらない。

女性は43.5%と前回に比べて6.5ポイント減少、男性は7.1%と、前回に比べて5.9ポイント増加した。

図 2-15 育児休業の取得状況



(6) 育児休業を取得しなかった理由

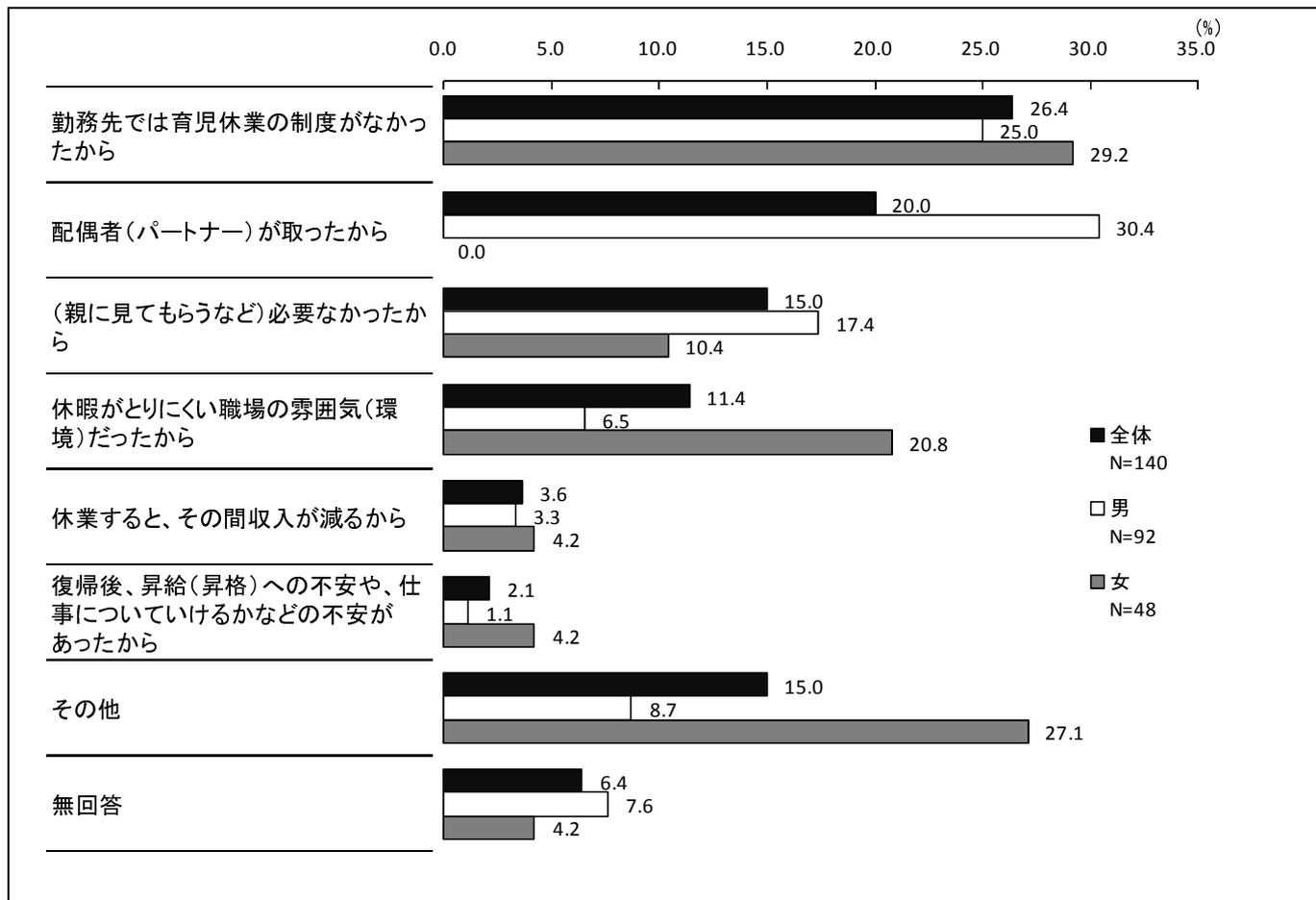
問10 問9で「2. 取らなかった」と答えた方にお聞きします。
取らなかった理由は何ですか。(1つだけに○)

育児休業を「取らなかった」とした140人の、取らなかった理由は、「勤務先では育児休業の制度がなかったから」が26.4%、「配偶者が取ったから」が20.0%となっている。

男女別では、女性は「勤務先では育児休業の制度がなかったから」が29.2%、「休暇が取りにくい職場の雰囲気(環境)だったから」が20.8%と多い。男性は「配偶者(パートナー)が取ったから」が30.4%となっている。

「育児・介護休業法」で本人の申出があれば育児休業を取得できるが、「勤務先に制度がない」との回答が3割近くを占めており、事業主に対して社内制度の整備を促すとともに、子育てしている人への制度の周知や情報提供を行っていくことが必要と思われる。

図 2-16 育児休業を取得しなかった理由



(7) 男性の育児休業について

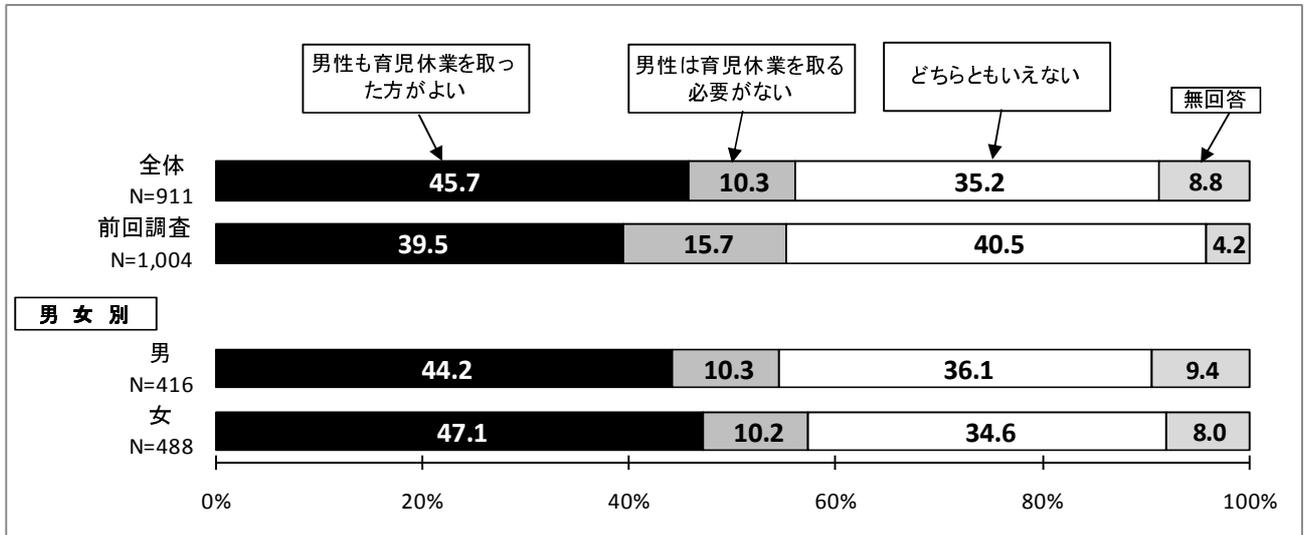
問 11 育児休業は男性も取ることができます。職場で男性が、取ることについて、どう思われますか。(1つだけに○)

男性が育児休業を取ることについて、「取った方がよい」は45.7%、「取る必要がない」は10.3%、「どちらともいえない」が35.2%となっている。

前回調査と比べると、「取った方がよい」は6.2ポイント多くなっている。

男女別では、女性の方が「取った方がよい」が若干多い。

図 2-17 男性の育児休業の取得について



(8) 高齢者介護の担い手

問 12 あなたの家庭では、高齢者介護の主たる担い手は誰ですか。現在介護を受ける人がいない場合は将来誰が中心になると思いますか。(1つだけに○)

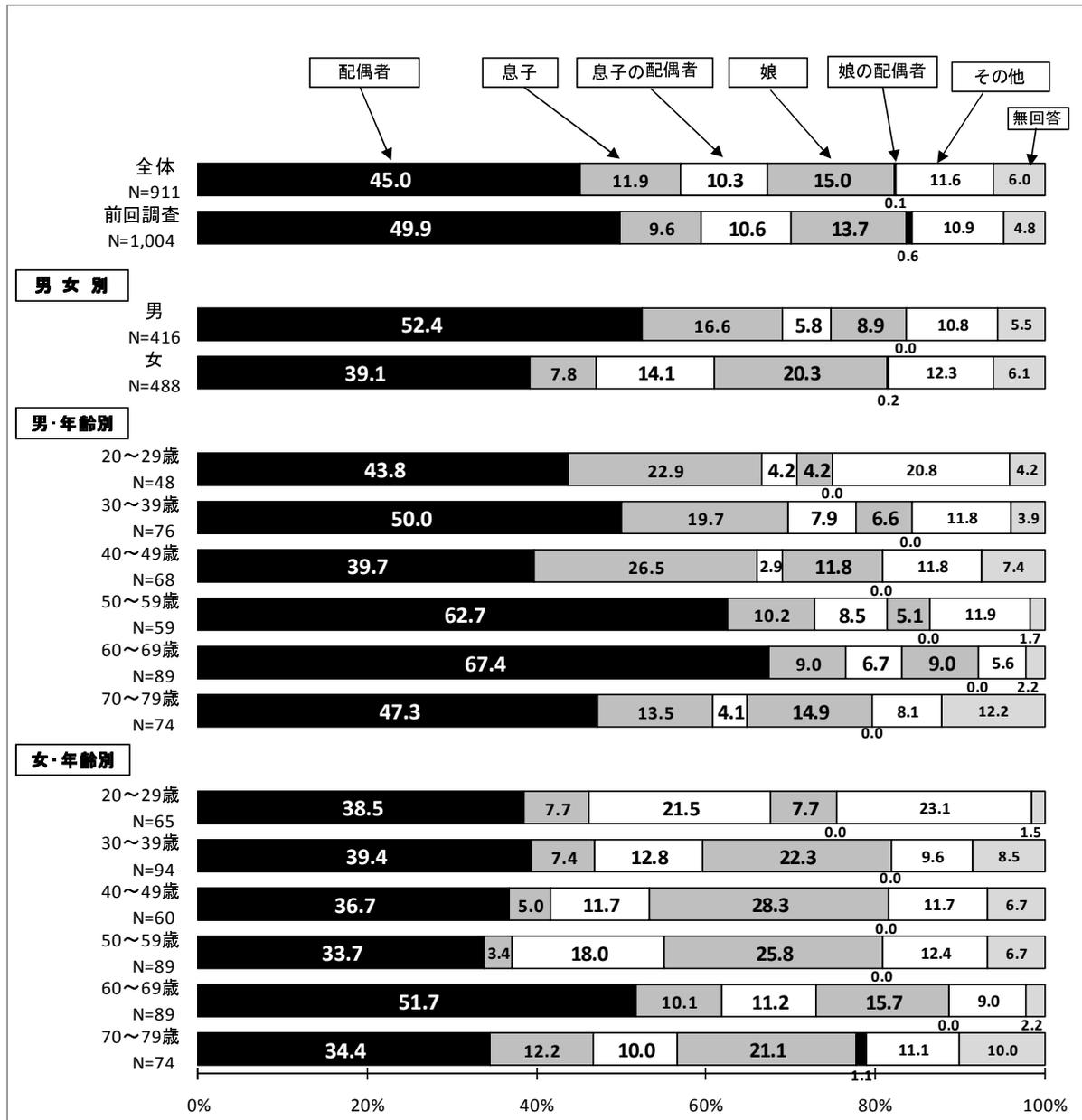
高齢者介護の担い手は、「配偶者」が45.0%と最も多く、次いで「娘」が15.0%、「息子」が11.9%となっている。

前回調査と比べると、「配偶者」が4.9ポイント減少している。

男女別では、男性は「配偶者」が52.4%と、女性に比べて13.3ポイント多い。特に、男性の「50～60歳代」では「配偶者」が6割を超えて多くなっている。「40歳代以下」では「息子」が約20～26%みられ、「娘」を大きく上回っている。

女性は「娘」が20.3%と男性を11.4ポイント上回っている。女性の「20歳代」「60歳代」を除いて、「娘」が2割を超え、「40歳代」では28.3%、「50歳代」では25.8%となっている。

図 2-18 高齢者介護の担い手



3. 仕事について

(1) 職場の実態

問 13 次の①～⑧について、職場の実態またはあなたの感じ方に近いものをそれぞれ1～4の中から1つずつに○をつけてください。

- ①採用や退職について、男女に差がなくなってきた
- ②仕事の分担は、男女関係なく個人の適性に合った形になっている
- ③同じ仕事の場合、男女同じように昇給・昇格している
- ④男女は、同じように研修や訓練を受けている
- ⑤育児休業制度が活用されるなど、妊娠・出産・育児などを支える制度、雰囲気がある
- ⑥女性は責任が重くなるのを敬遠しているように思われる
- ⑦女性も管理職に就いて、経営方針や企画に積極的に関わっている
- ⑧出産などにより一旦退職した女性が同じ職場に再雇用される

働いている609人の、職場での男女差に関する意識をみてる。

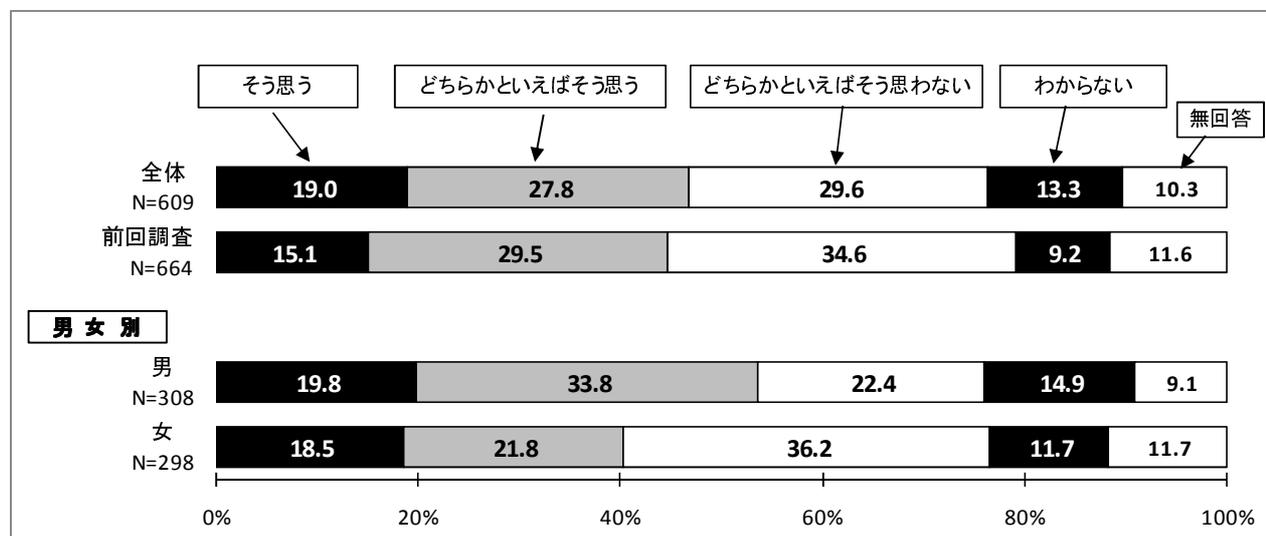
①採用や退職について、男女に差がなくなってきた

採用や退職に関する男女差がなくなってきたことについて、肯定した割合（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）は46.8%、否定した割合（「どちらかといえばそう思わない」）は29.6%となっている。

前回調査と比べると、肯定した割合は2.2ポイント増加した。

男女別でみると、男性は肯定した割合が53.6%と半数を超え、女性に比べて13.3ポイント多い。女性は否定した割合が36.2%と男性を13.8ポイント上回っている。

図 3-1 採用や退職について、男女に差がなくなってきた



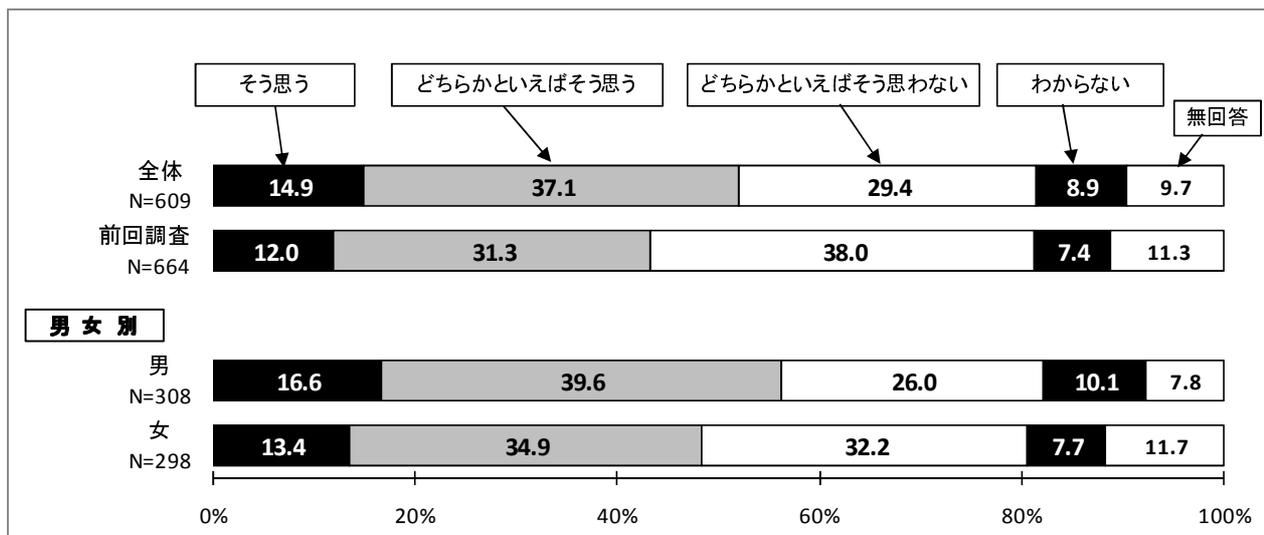
②仕事の分担は、男女関係なく個人の適性に応じた形になっている

男女関係なく仕事の分担が行われているかについて、肯定した割合は 52.0%、否定した割合は 29.4% となっている。

前回調査と比べると、肯定した割合は 8.7 ポイント増加した。

男女別で見ると、男性は肯定した割合が 56.2%と半数を超え、女性に比べて 7.9 ポイント多い。女性は否定した割合が 32.2%と男性を 6.2 ポイント上回っている。

図 3-2 仕事の分担は、男女関係なく個人の適性に応じた形になっている



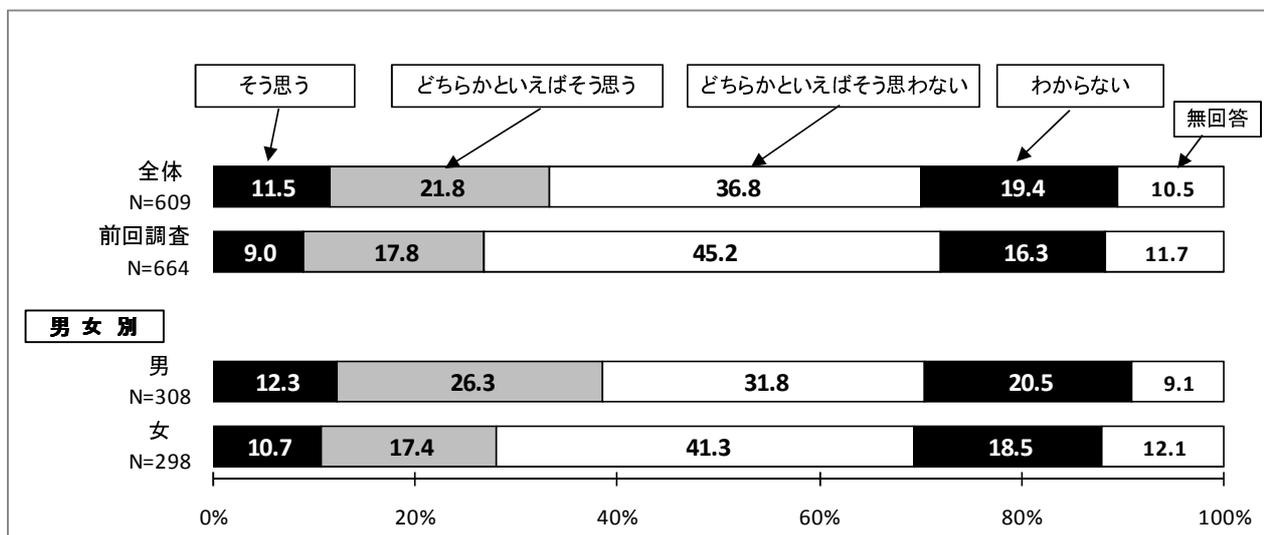
③同じ仕事の場合、男女同じように昇給・昇格している

男女差のない昇給・昇進について、否定した割合が 36.8%と、肯定した割合 (33.3%) を若干上回っている。

前回調査と比べると、肯定した割合は 6.5 ポイント増加、否定した割合は 8.4 ポイント減少した。

男女別で見ると、男性は肯定した割合が 38.6%と、女性に比べて 10.5 ポイント多い。女性は否定した割合が 41.3%と男性を 9.5 ポイント上回っている。

図 3-3 同じ仕事の場合、男女同じように昇給・昇格している



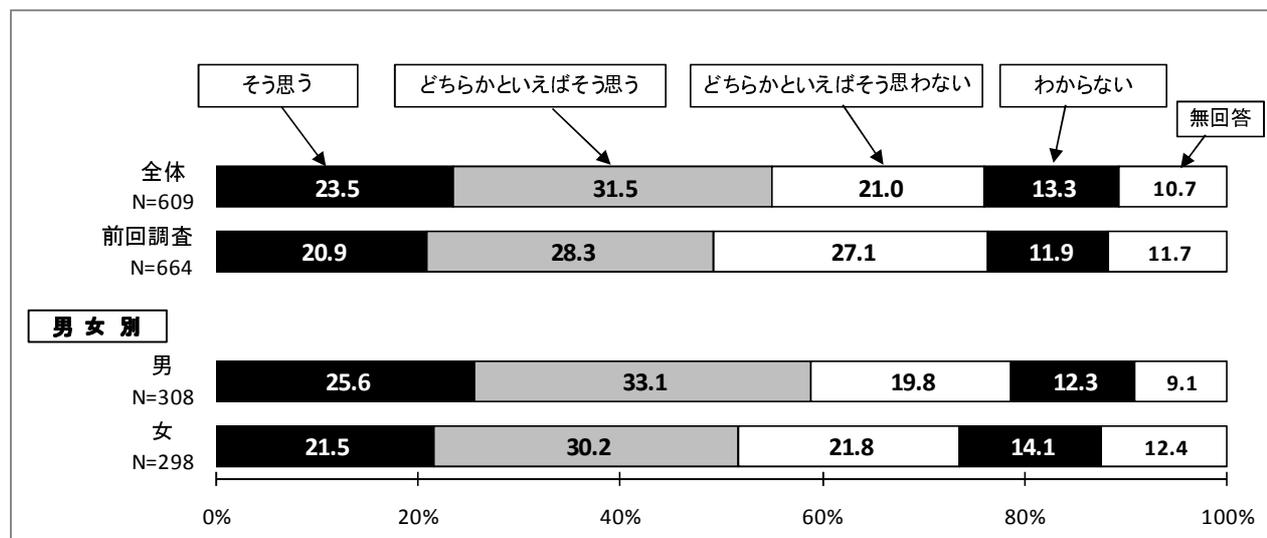
④男女は、同じように研修や訓練を受けている

男女差のない研修や教育訓練について、肯定した割合は 55.0%、否定した割合は 21.0%となっている。

前回調査と比べると、肯定した割合は 5.8 ポイント増加した。

男女別で見ると、男性は肯定した割合が 58.7%と半数を超え、女性に比べて 7.0 ポイント多い。女性は否定した割合が 21.8%と男性を 2.0 ポイント上回っている。

図 3-4 男女は、同じように研修や訓練を受けている



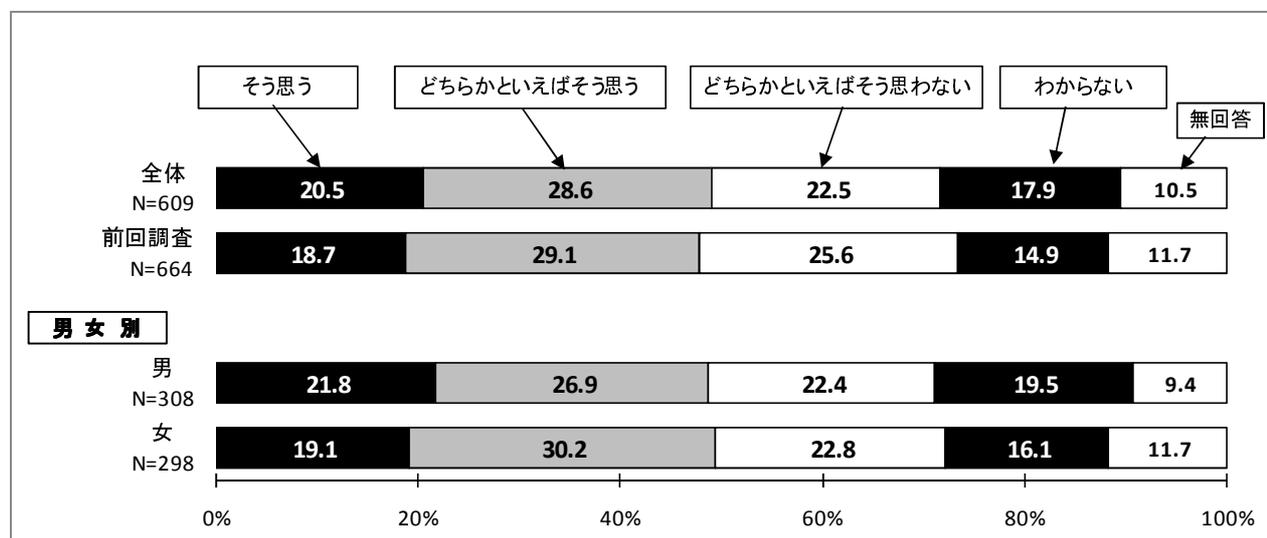
⑤育児休業制度が活用されるなど、妊娠・出産・育児などを支える制度、雰囲気がある

育児などを支える制度があるかについて、肯定した割合は 49.1%、否定した割合は 22.5%となっている。

前回調査と比べると、ほぼ同じ傾向にある。

男女別で見ると、大きな違いはみられない。

図 3-5 妊娠・出産・育児などを支える制度、雰囲気がある



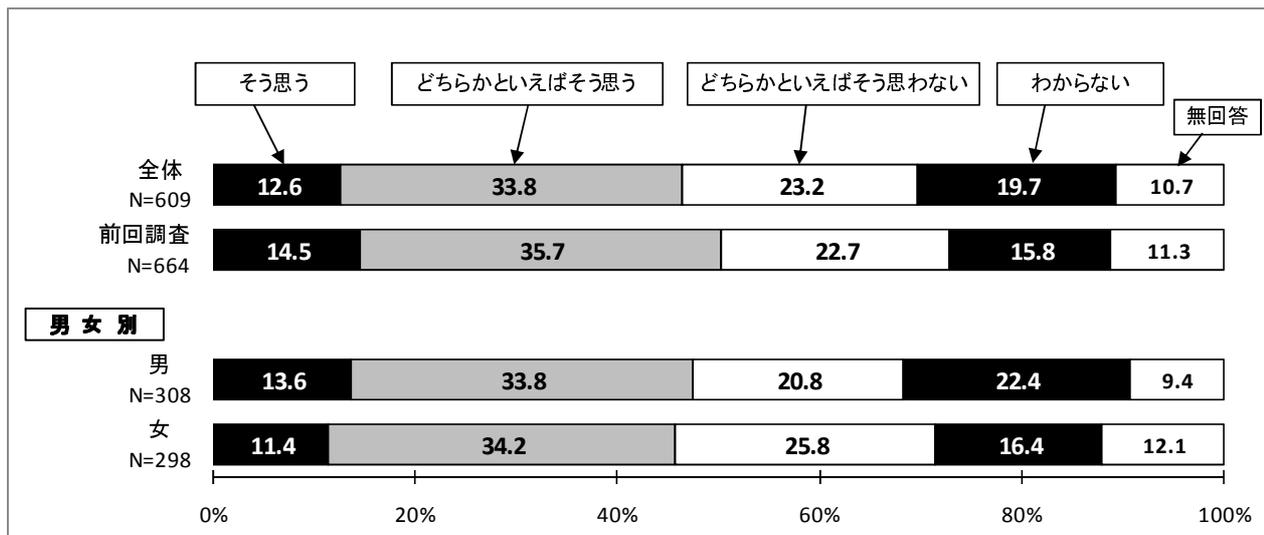
⑥女性は責任が重くなるのを敬遠しているように思われる

女性は責任が重くなるのを敬遠しているかについて、肯定した割合は 46.4%、否定した割合は 23.2% となっている。

前回調査と比べると、肯定した割合は 3.8 ポイント減少した。

男女別でみると、男性は肯定した割合が 47.4%と、女性に比べて 1.8 ポイント多い。女性は否定した割合が 25.8%と男性を 5 ポイント上回っている。

図 3-6 女性は責任が重くなるのを敬遠しているように思われる



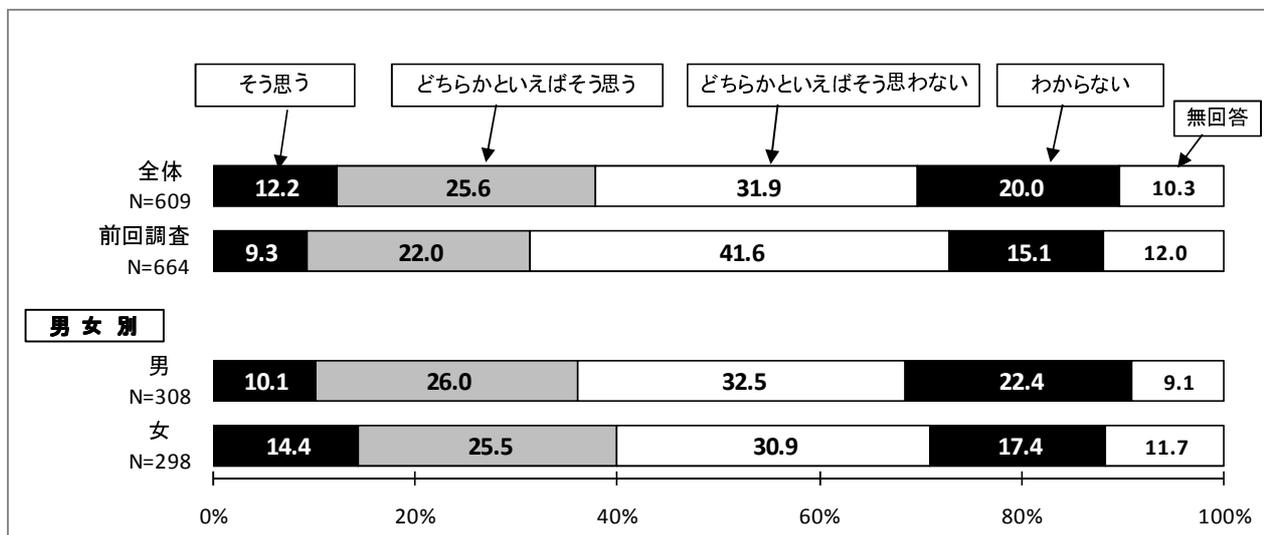
⑦女性も管理職に就いて、経営方針や企画に積極的に関わっている

女性も管理職に就いて、経営方針や企画に積極的に関わっているかについて、肯定した割合は 37.8%、否定した割合は 31.9%となっている。

前回調査と比べると、肯定した割合は 6.5 ポイント増加した。

男女別でみると、女性は肯定した割合が 39.9%と、男性に比べて 3.8 ポイント多い。

図 3-7 女性も管理職に就いて、経営方針や企画に積極的に関わっている



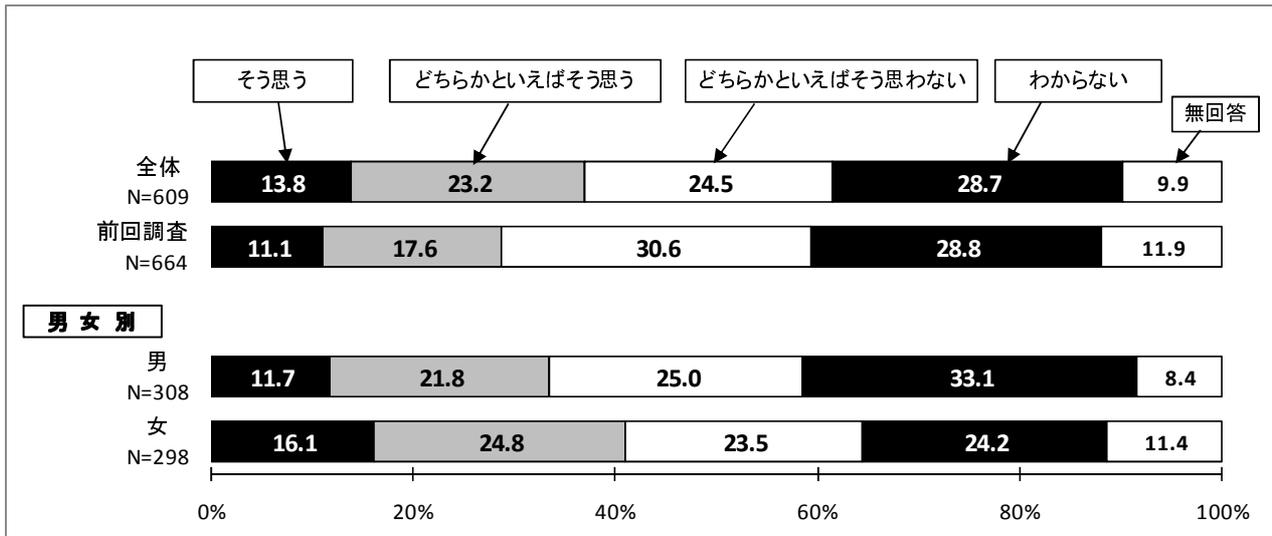
⑧出産などにより一旦退職した女性が同じ職場に再雇用される

再雇用について、肯定した割合（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）は37.0%、否定した割合は24.5%となっている。

前回調査と比べると、肯定した割合は8.3ポイント増加した。

男女別で見ると、女性は肯定した割合が40.9%と、男性に比べて7.4ポイント多い。

図 3-8 出産などにより一旦退職した女性が同じ職場に再雇用される



以上、8つの項目で見ると、「研修や訓練」「仕事の分担」では職場での男女差がなくなってきていると意識している割合は多く、「昇進・昇格」や「管理職への登用・経営方針や企画への関与」においては、男女格差があると意識している傾向にある。しかし、前回調査と比べると、8つの項目すべてにおいて、男女格差が改善される傾向にあると思われる。

(2) 仕事と、家庭生活や地域活動の望ましいあり方について

問 14 仕事と、家庭生活や地域活動（家庭生活等）について、あなたが望ましいと思うのはどれですか。また、あなたご自身の実際の生活はいかがですか。

（①～③について、1～5の番号1つずつに○）

①望ましい男性のあり方 ②望ましい女性のあり方 ③あなたの実際の生活

①望ましい男性のあり方

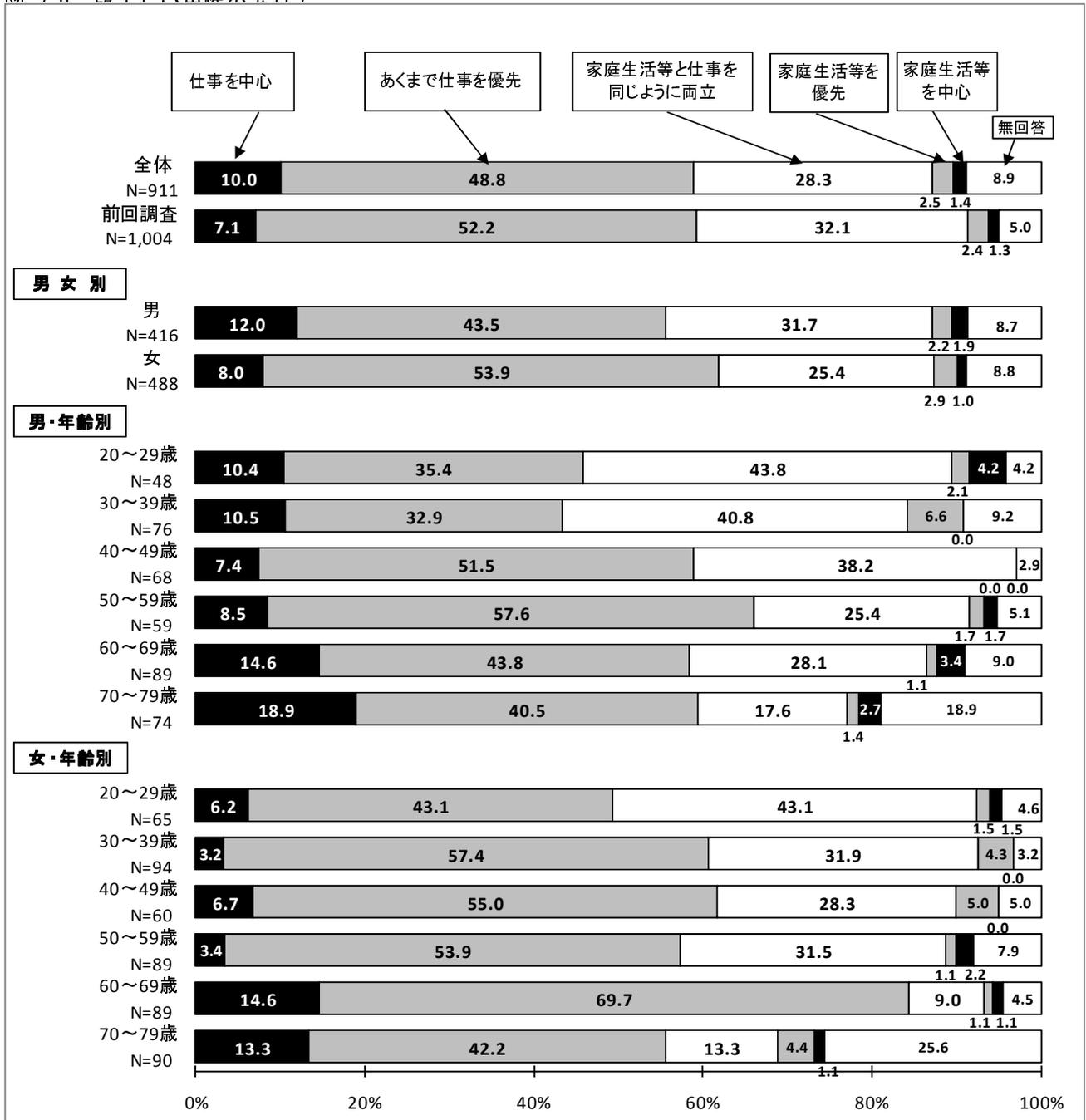
望ましい男性のあり方は、仕事を優先とする割合（「仕事を中心」＋「家庭生活等にも携わるが、あくまでも仕事を優先する」）は58.8%と6割近くを占める。「家庭生活等と仕事を同じように両立させる」が28.3%、家庭生活等を優先とする割合（「家庭生活等を中心にする」＋「仕事には携わるが家庭生活等を優先させる」）は3.9%となっている。

前回調査と比べると、「家庭生活等と仕事を同じように両立させる」が3.8ポイント減少した。

男女別では、女性は、男性は仕事を優先とする割合が61.9%と、男性に比べて6.4ポイント多い。

性別年齢別でみると、女性の「60歳代」は、男性は仕事を優先とする割合が84.3%と他の年齢に比べて多くなっている。

図 2.0 望ましい男性の暮らしかた



②望ましい女性のあり方

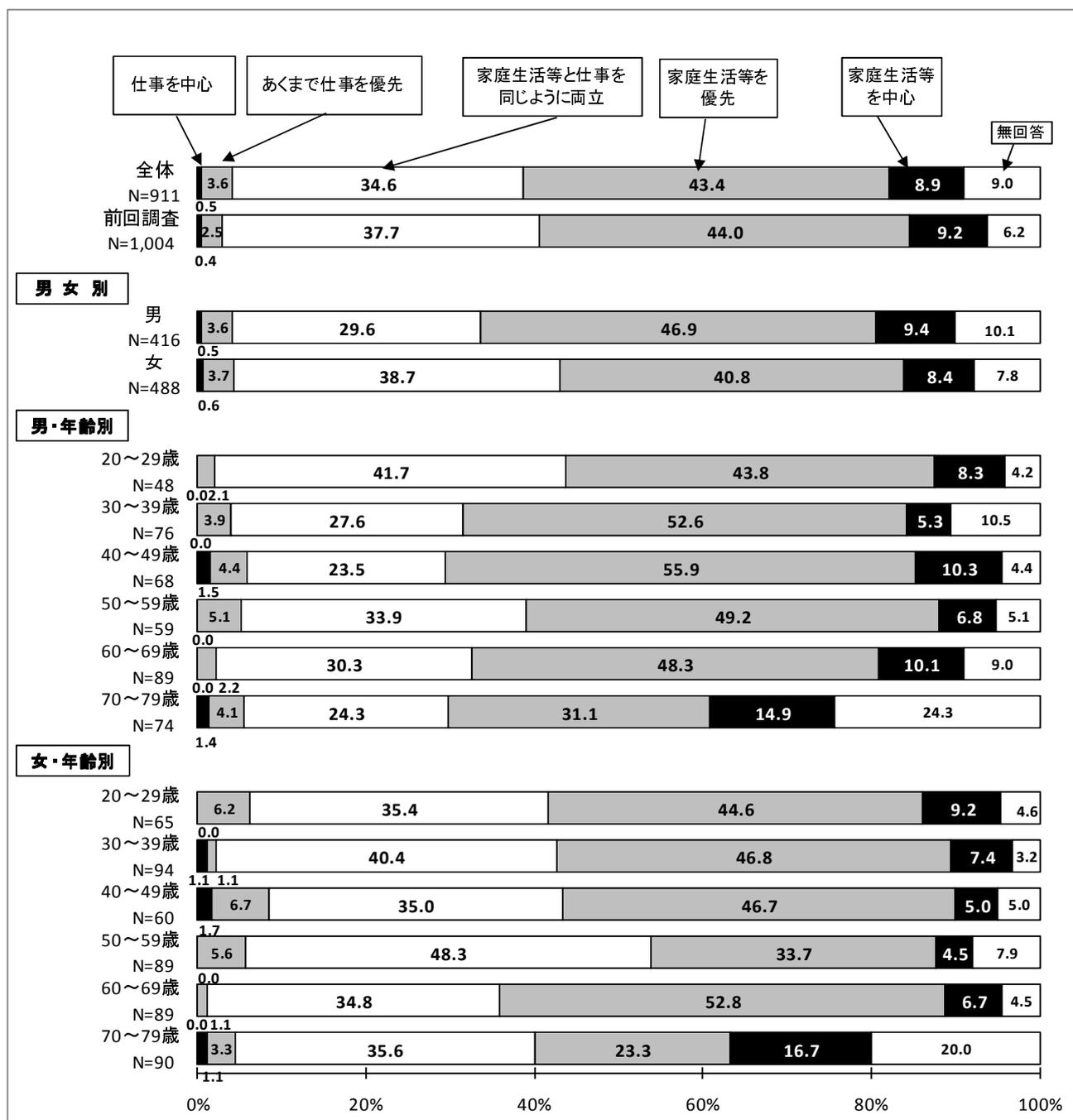
望ましい女性のあり方は、家庭生活等を優先とする割合（「家庭生活等を中心にする」＋「仕事には携わるが家庭生活等を優先させる」）は52.3%と5割を占める。「家庭生活等と仕事を同じように両立させる」が34.6%、「家庭生活等には携わるが、あくまでも仕事を優先させる」は3.6%、「仕事を中心にする」は0.5%となっている。

前回調査と比べると、ほぼ同じ傾向にある。

男女別では、男性は、女性は家庭活等を優先とする割合が56.3%と、女性に比べて7.1ポイント多い。

性別年齢別でみると、女性の「50歳代」は、「家庭生活等と仕事を同じように両立させる」が48.3%と家庭活等を優先とする割合（38.2%）に比べ10.1ポイント多い。

図 3-10 望ましい女性のあり方



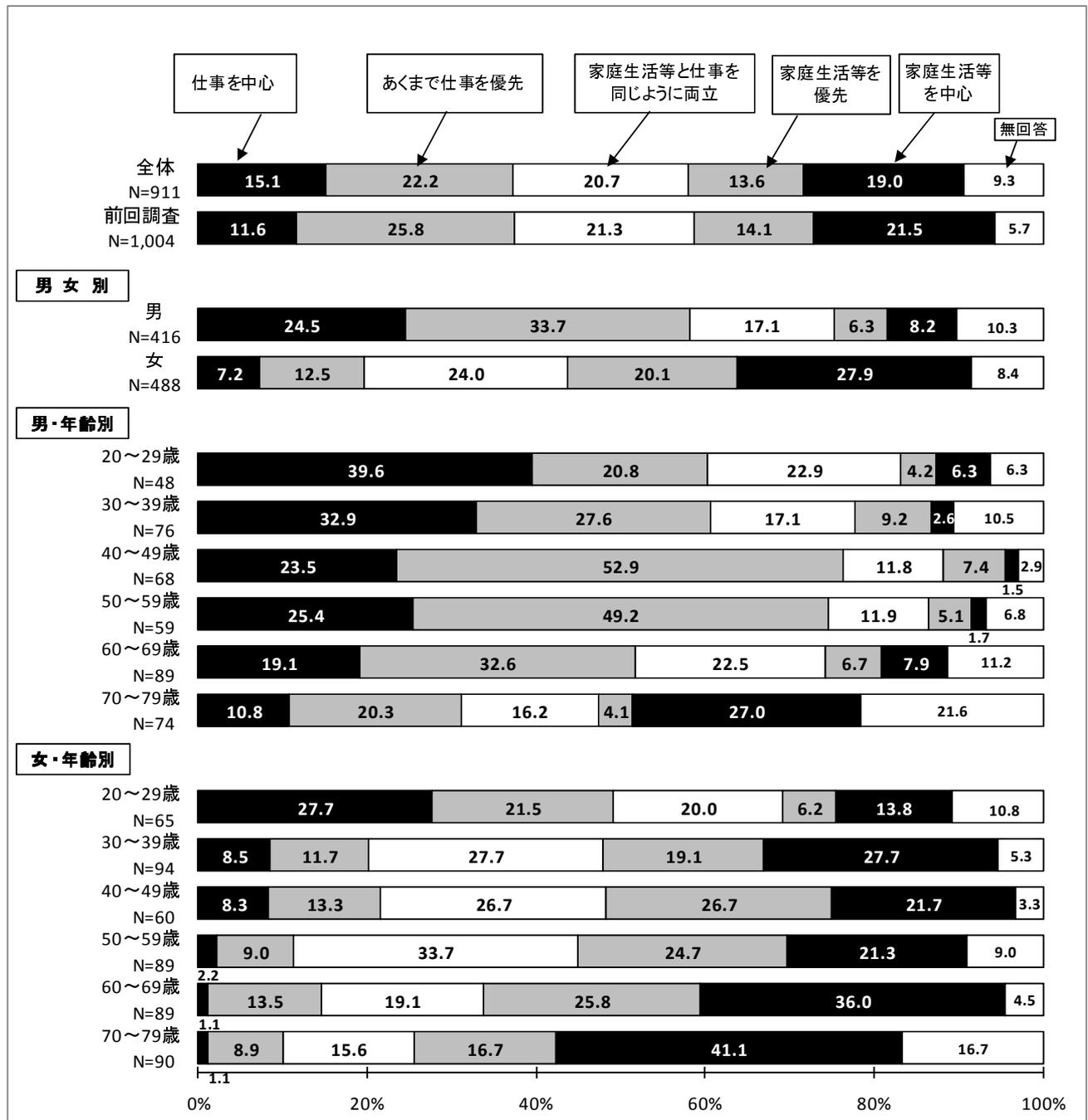
③あなたの実際の生活

実際の生活は、仕事を優先とする割合は37.3%、家庭生活等を優先とする割合は32.6%、「家庭生活等と仕事を同じように両立させる」が20.7%となっている。

男女別では、男性は仕事を優先とする割合が58.2%、女性は家庭活等を優先とする割合が48.0%となっている。

性別年齢別でみると、男性の「40～50歳代」は仕事を優先とする割合が約75%を占める。女性の「60歳代以上」は、家庭活等を優先とする割合が多い。

図 3-11 実際の生活



④理想と現実

男性が考える「望ましい男性のあり方」と男性の実際の生活、女性が考える「望ましい女性のあり方」と女性の実際の生活をそれぞれ比較してみる。

男性は、「仕事を中心」が理想では12.0%、現実には24.5%と、12.5ポイント多い。「家庭生活等と仕事の両立」が理想では31.7%、現実には17.1%と14.6ポイント少ない。家庭生活等を優先とする割合（「家庭生活等を中心にする」+「仕事には携わるが家庭生活等を優先させる」）は理想では4.1%で、現実には14.5%と、10.4ポイント多い。

女性は、家庭生活等を優先とする割合は理想と現実ではほぼ変わらない。「家庭生活等と仕事の両立」が理想では38.7%、現実には24.0%と14.7ポイント少ない。仕事を優先とする割合は理想では4.3%、現実には19.7%と15.4ポイント多くなっている。

現在就業し、かつ結婚して家庭を持っている人の理想と現実をみても、同様の傾向にある。

図 3-12-① 理想と現実

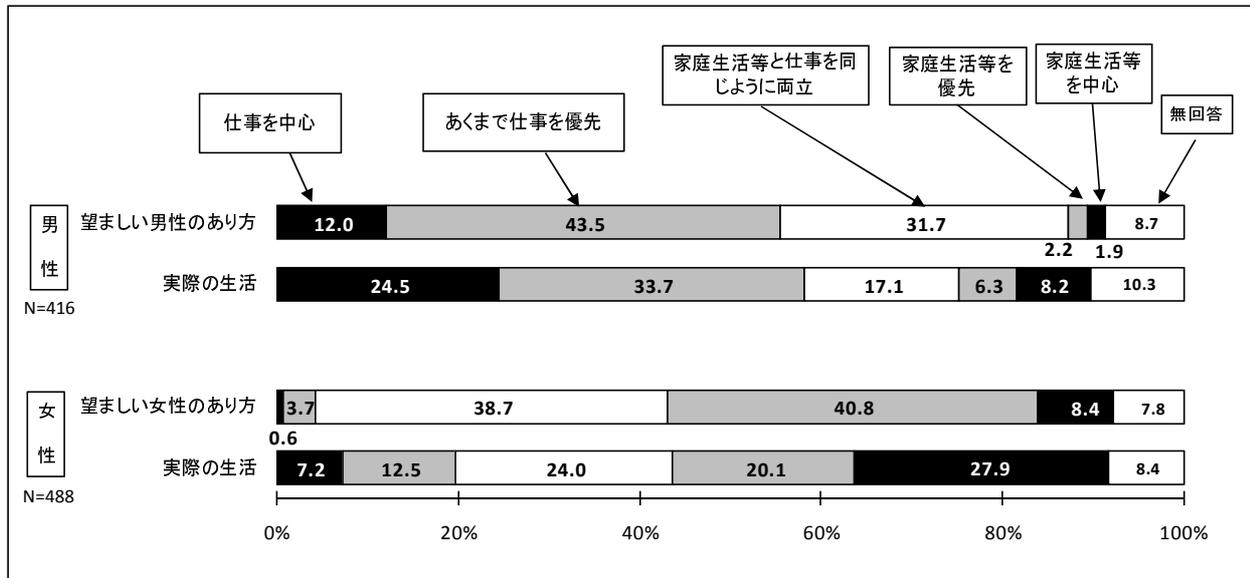
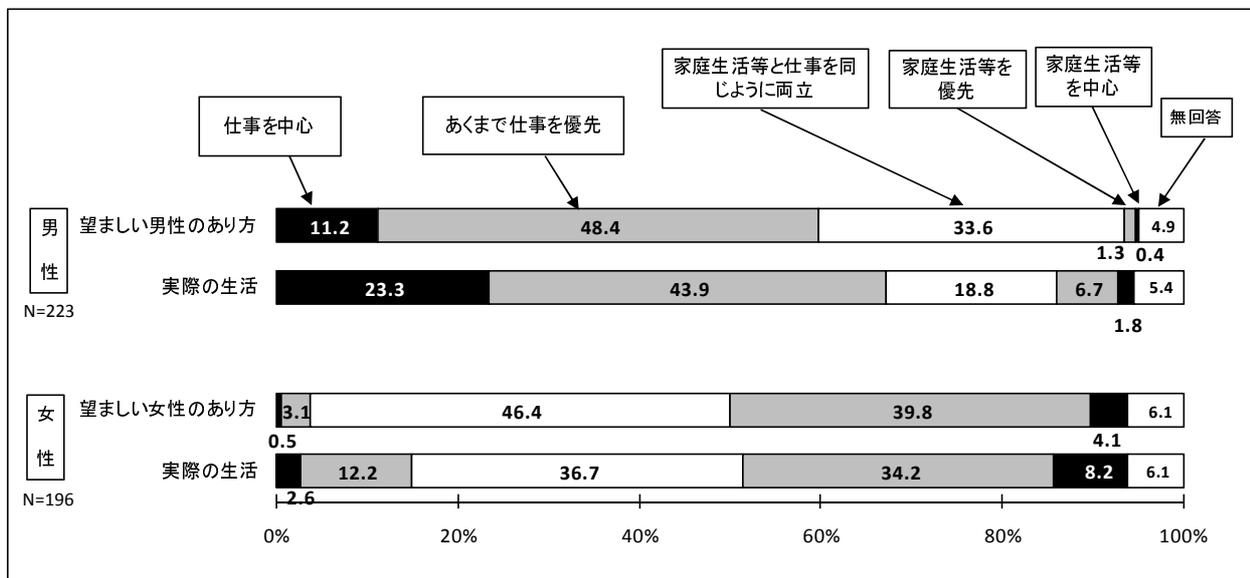


図 3-12-② 理想と現実（就業し、結婚をしている人）



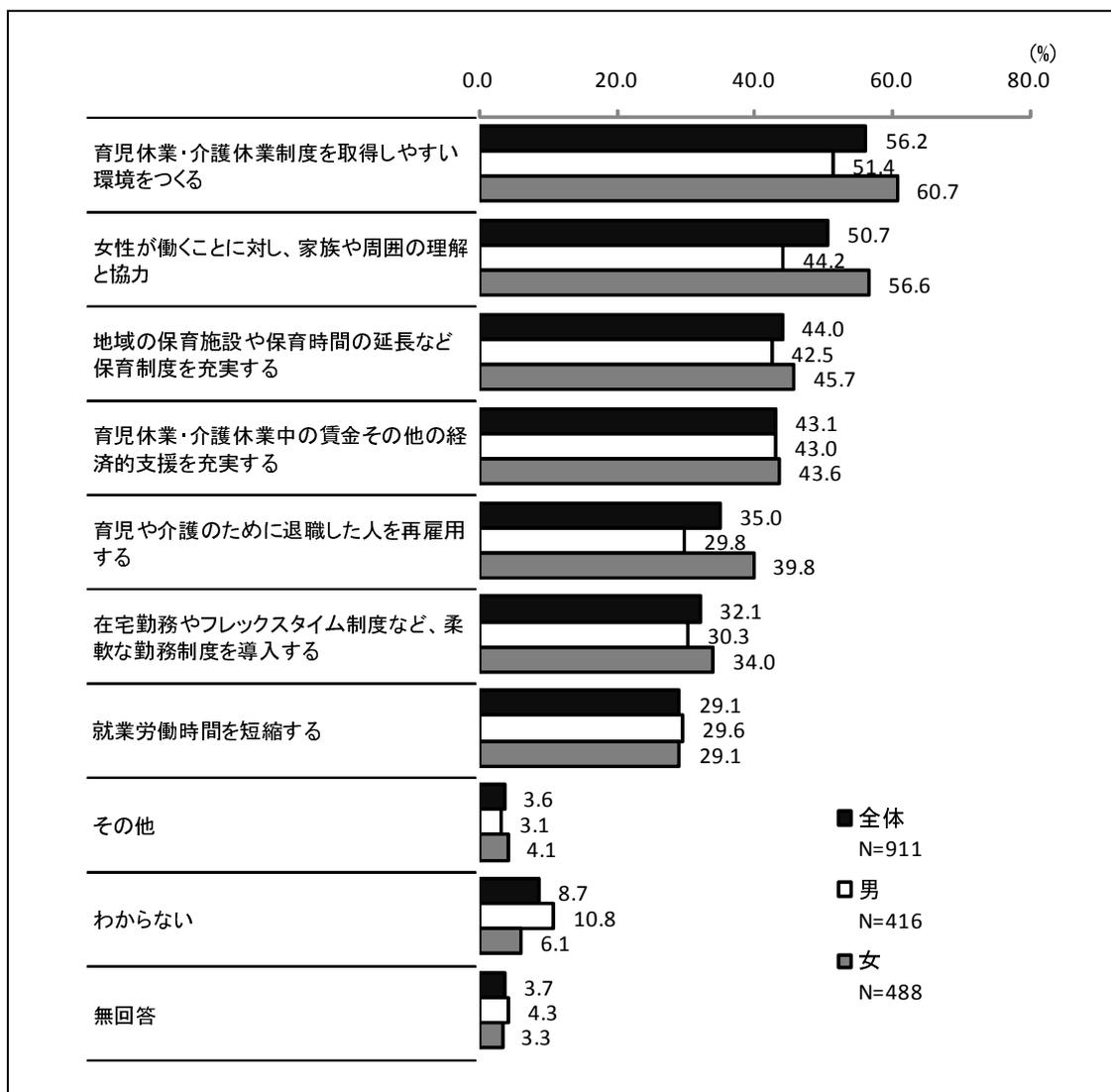
(3) 仕事と家庭の両立に必要なこと

問 15 男女がともに仕事と家庭を両立していくためには、あなたはどのようなことが必要だと思いますか。(いくつでも○)

男女がともに仕事と家庭を両立していくために必要だと思うことは、「育児休業・介護休業制度を取得しやすい環境をつくる」が最も多く 56.2%、次いで「女性が働くことに対し、家族や周囲の理解と協力」が 50.7%、「地域の保育施設や保育時間の延長など保育制度を充実する」が 44.0%、「育児休業・介護休業中の賃金その他の経済的支援を充実する」が 43.1%となっている。

男女別では、女性は「育児休業・介護休業制度を取得しやすい環境をつくる」が 60.7%、「女性が働くことに対し、家族や周囲の理解と協力」が 56.6%と、男性に比べそれぞれ 9.3 ポイント、12.4 ポイント多くなっている。また、「育児や介護のために退職した人を再雇用する」が 39.8%と、男性を 10 ポイント上回っている。

図 3-13 仕事と家庭の両立に必要なこと（複数回答）



性別年齢別では、男性の「70歳以上」、女性の「60歳代以上」は「女性が働くことに対し、家族や周囲の理解と協力」が多くなっている。男性の「20歳代」は「育児休業・介護休業中の賃金その他の経済的支援を充実する」が58.3%と、他の年齢層に比べて多い。また、男性の「20歳代」、女性の「30～50歳代」は「在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入する」が多い。

仕事と家庭を両立するためには、男女双方の育児休業取得や多様な働き方の普及・促進を図るなど、働きやすい職場環境が整備されるよう、また家族の協力体制の確立に向けて、事業主・市民への意識啓発に取り組むことが大切と思われる。

表2 仕事と家庭の両立に必要なこと（複数回答） (%)

		育児休業・介護休業制度を充実する	女性が働くことに対し、家族や周囲の理解と協力	地域の保育施設や保育時間の延長	他育児休業・介護休業中の賃金その他の経済的支援を充実する	育児や介護のために退職した人を再雇用する	在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入する	就業労働時間を短縮する	その他	わからない	無回答
性別年齢別	男：20～29歳 N=48	64.6	47.9	43.8	58.3	31.3	45.8	27.1	2.1	10.4	2.1
	30～39歳 N=76	47.4	42.1	43.4	47.4	28.9	30.3	36.8	7.9	3.9	3.9
	40～49歳 N=68	44.1	23.5	41.2	36.8	23.5	33.8	38.2	-	13.2	4.4
	50～59歳 N=59	52.5	50.8	44.1	40.7	33.9	33.9	27.1	3.4	5.1	5.1
	60～69歳 N=89	53.9	48.3	48.3	46.1	33.7	28.1	25.8	4.5	13.5	3.4
	70～79歳 N=74	50.0	52.7	33.8	32.4	27.0	17.6	21.6	-	16.2	6.8
	女：20～29歳 N=65	66.2	56.9	41.5	46.2	33.8	29.2	35.4	3.1	3.1	1.5
	30～39歳 N=94	61.7	45.7	51.1	45.7	35.1	45.7	35.1	10.6	4.3	2.1
	40～49歳 N=60	58.3	53.3	40.0	46.7	36.7	53.3	30.0	3.3	6.7	3.3
	50～59歳 N=89	70.8	56.2	49.4	44.9	46.1	42.7	30.3	2.2	3.4	4.5
60～69歳 N=89	62.9	68.5	48.3	42.7	43.8	24.7	25.8	1.1	5.6	-	
70～79歳 N=90	44.4	57.8	40.0	36.7	40.0	12.2	20.0	3.3	13.3	7.8	
職業別	自営業 N=108	49.1	60.2	47.2	41.7	41.7	26.9	27.8	2.8	11.1	4.6
	フルタイム勤務 N=383	58.5	47.0	46.5	47.3	32.6	35.5	32.4	4.7	5.7	2.3
	パートタイム勤務 N=118	64.4	55.1	39.0	47.5	45.8	44.9	26.3	0.8	6.8	6.8
	無職 N=290	53.4	51.7	42.1	37.2	31.7	24.5	26.6	3.4	12.1	3.4

 = 最も多い数値

4. 人権について

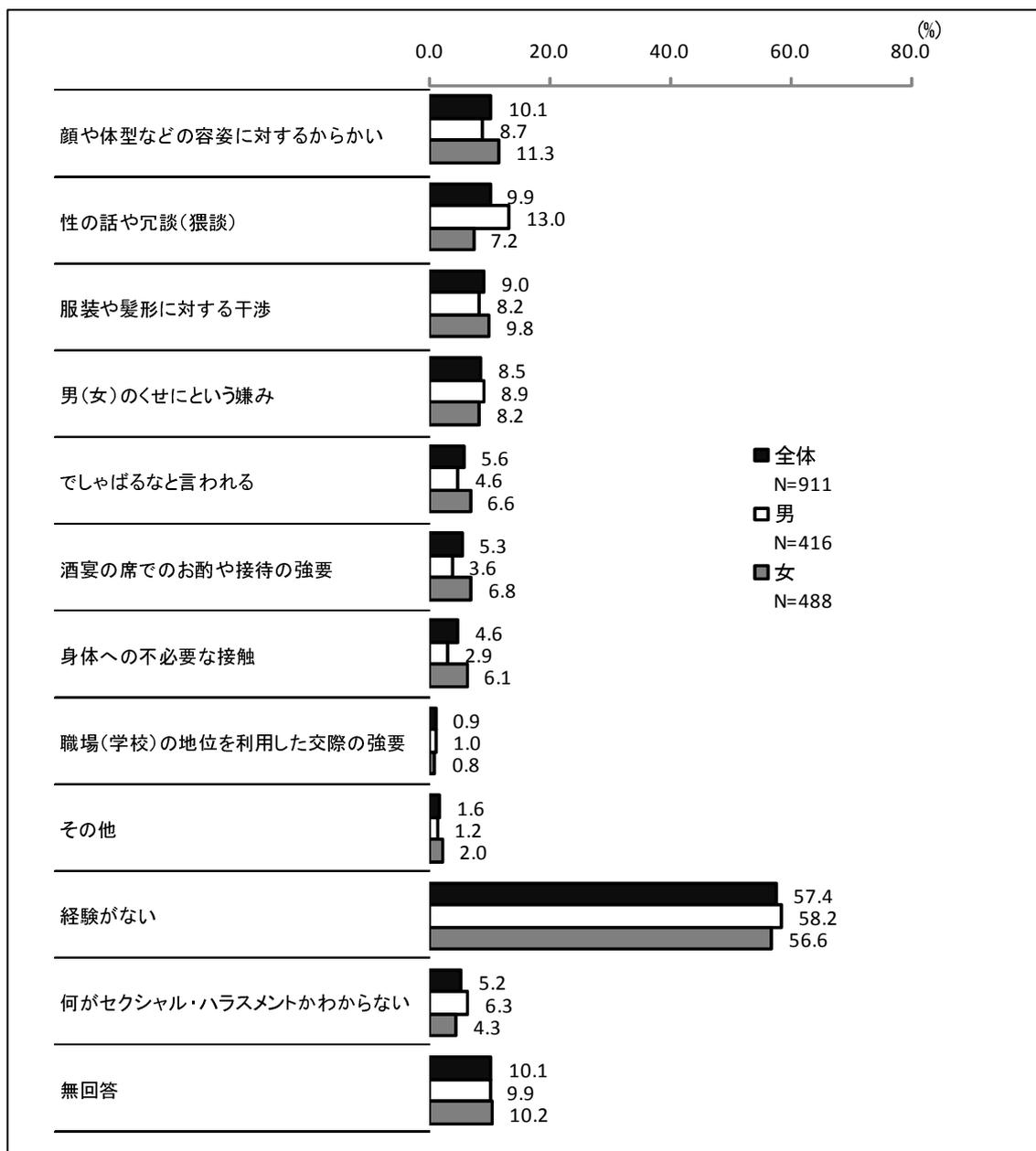
(1) セクシャルハラスメント

問 16 最近5年間で、あなたは、職場（アルバイト先を含む）や学校、地域の会合などで次のようなセクシュアル・ハラスメントをされたり、みたりした経験がありますか。（いくつでも○）

セクシュアル・ハラスメントの「経験がない」は57.4%と6割近くを占める。

経験のある人のその内容は、男性は「性的話や冗談（猥談）」が、女性は「顔や体型などの容姿に対するからかい」「服装や髪形に対する干渉」が上位にあげられた。

図 4-1 セクシャルハラスメントの経験（目撃経験含む）（複数回答）



(2) セクシャルハラスメントの対処

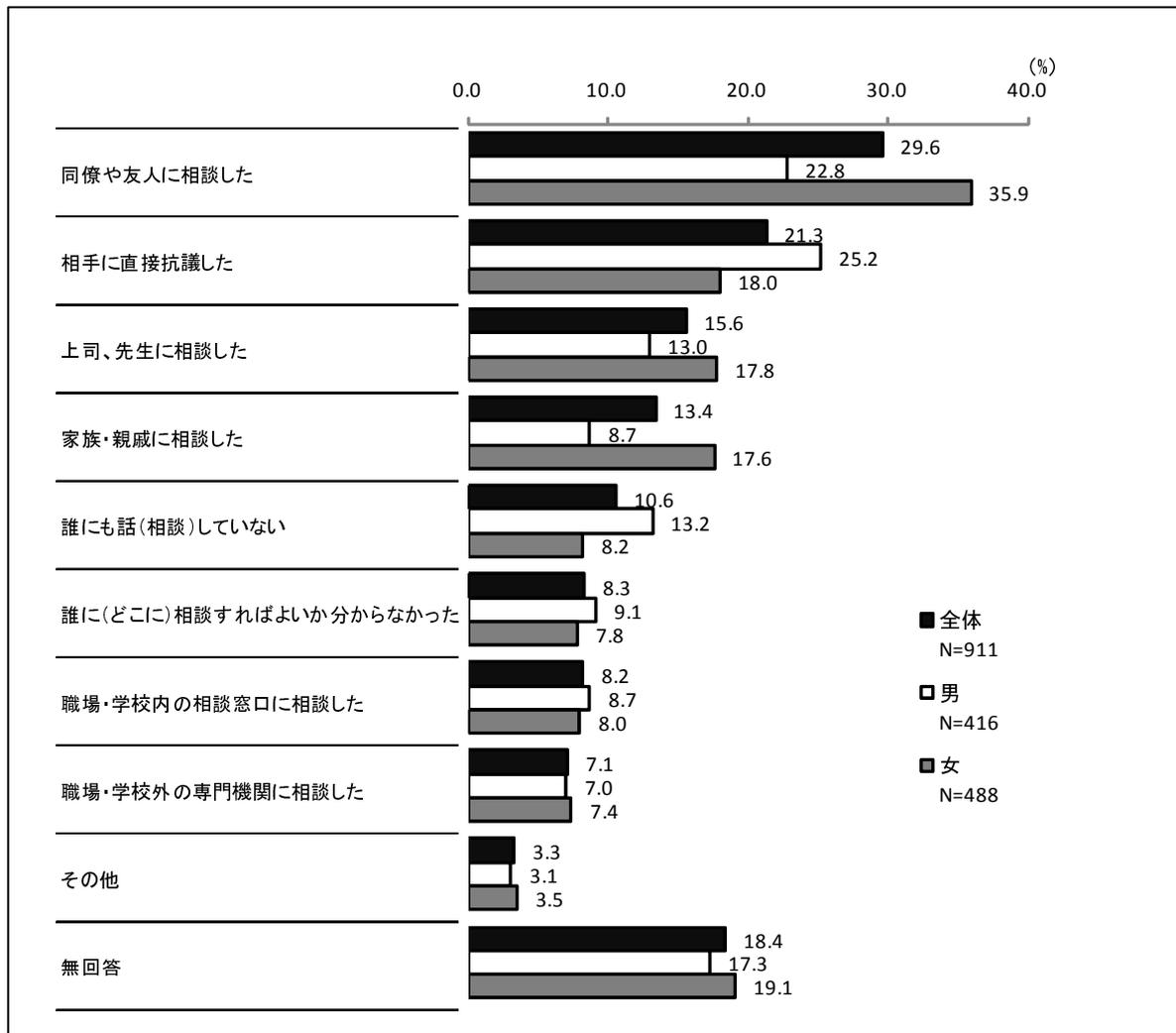
問 17 セクシュアル・ハラスメントをされたり、みたりした時、あなたはどうしましたか。
 (経験の無い方は「どうするか」に置きかえて考えてください。)(いくつでも○)

セクシュアル・ハラスメントをされたり、みたりした時どうするか、をみると、「同僚や友人に相談した」が最も多く 29.6%、次いで「相手に抗議した」が 21.3%、「上司、先生に相談した」が 15.6%、「家族・親戚に相談した」が 13.4%となっている。「職場・学校内の相談窓口」や「職場・学校外の専門機関」に相談した割合は 7~8%と少ない。また、「誰にも話(相談)していない」が 10.6%、「誰に(どこに)相談すればよいか分からなかった」が 8.3%となっている。

気軽に相談できる窓口を充実させ、情報発信していくことが必要と思われる。

男女別では、女性は「同僚や友人に相談した」が 35.9%と、男性に比べて 13.1 ポイント多い。また、「上司、先生に相談した」が 17.8%、「家族・親戚に相談した」が 17.6%とそれぞれ 4.8 ポイント、8.9 ポイント男性を上回っている。男性は「相手に抗議した」が 25.2%と女性に比べて 7.2 ポイント多くなっている。

図 4-2 セクシャルハラスメントの対処(複数回答)



(3) DV（パートナー間の暴力）の経験

問 18 あなたは夫や妻、パートナー、恋人から次のような行為をされたことがありますか。

((1)～(4)それぞれに1つに○)

- (1) 殴(なぐ)る、ける、物を投げる、首をしめるなどの身体的暴力
- (2) 大声で怒鳴(どな)る、脅(おど)す、交友関係や電話の監視などの精神的暴力
- (3) 生活費を渡さない、金銭的な自由を与えないなどの経済的暴力
- (4) 嫌がるのに性的な行為を強要したり、ポルノ雑誌をみせるなどの性的暴力

DVを受けた経験があると答えた人は、全体で19.6%、男性は13.0%、女性は25.6%となっている。この中で精神的暴力の経験が一番多く16.4%（「頻繁にある」2.2%+「数回ある」14.2%）。次いで身体的暴力は10.4%（「頻繁にある」0.5%+「数回ある」9.9%）、経済的暴力は5.2%（「頻繁にある」0.5%+「数回ある」4.5%）、性的暴力は4.5%（「頻繁にある」0.3%+「数回ある」4.2%）となっている。

図 4-3 DVの経験

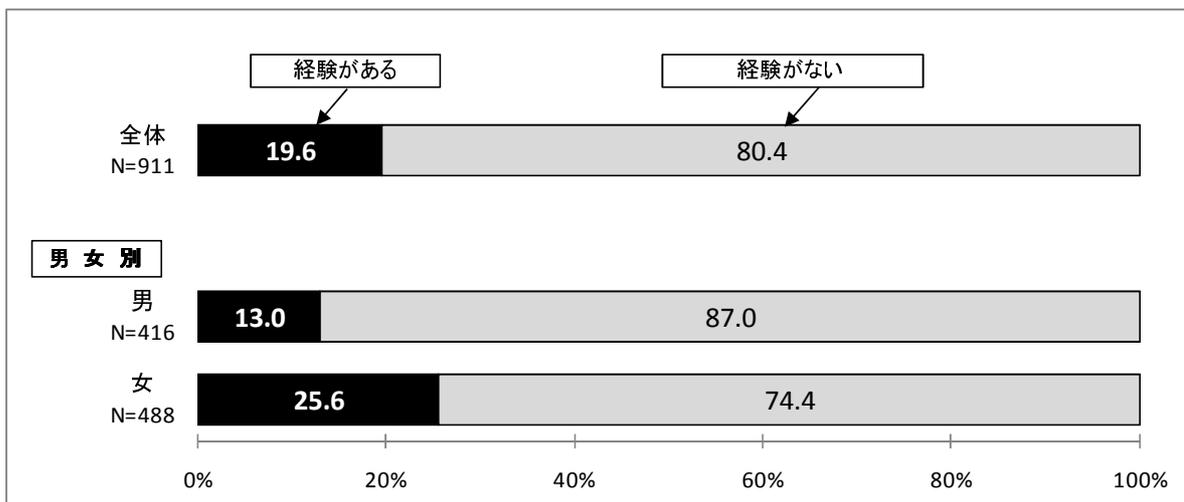
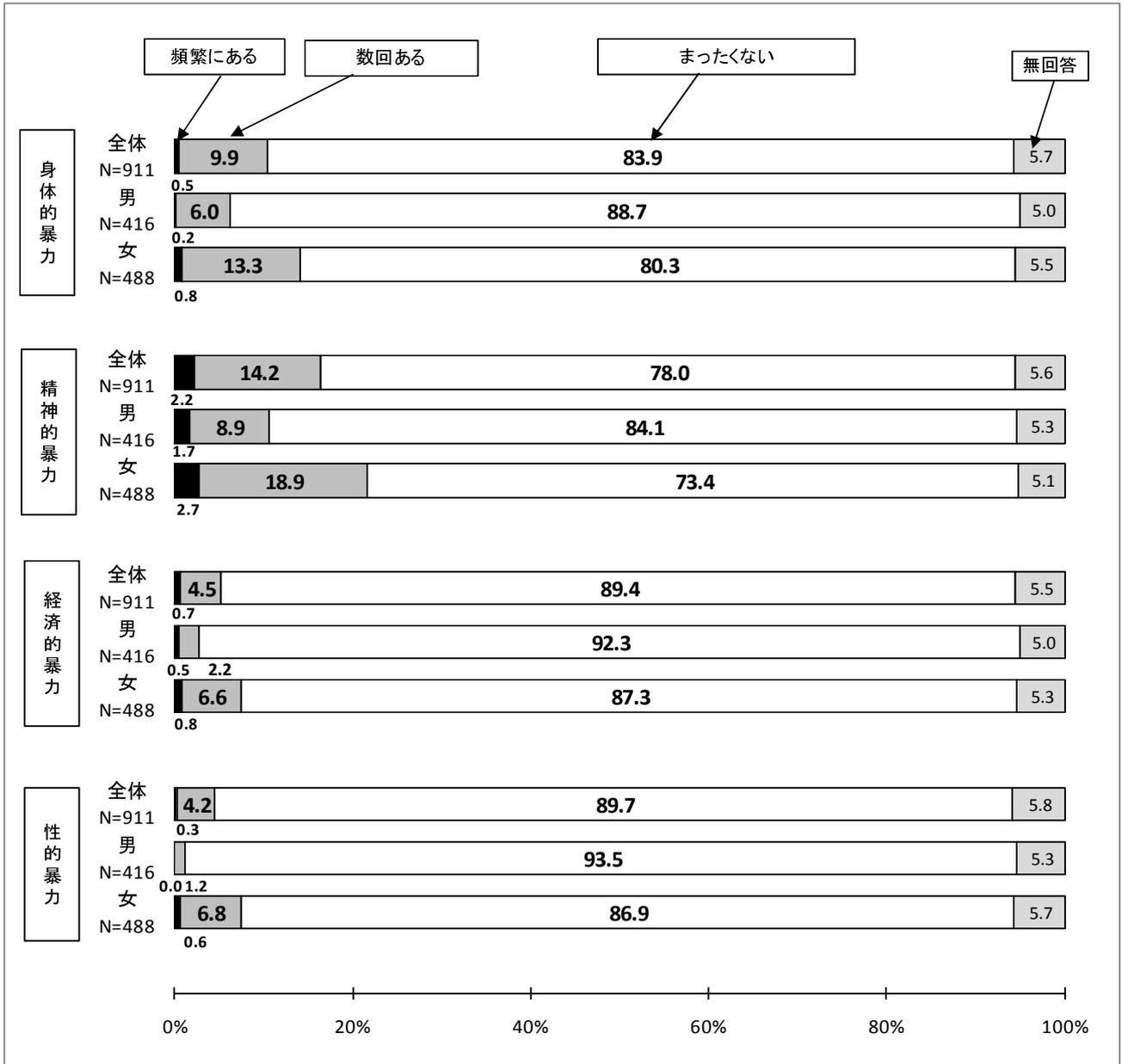


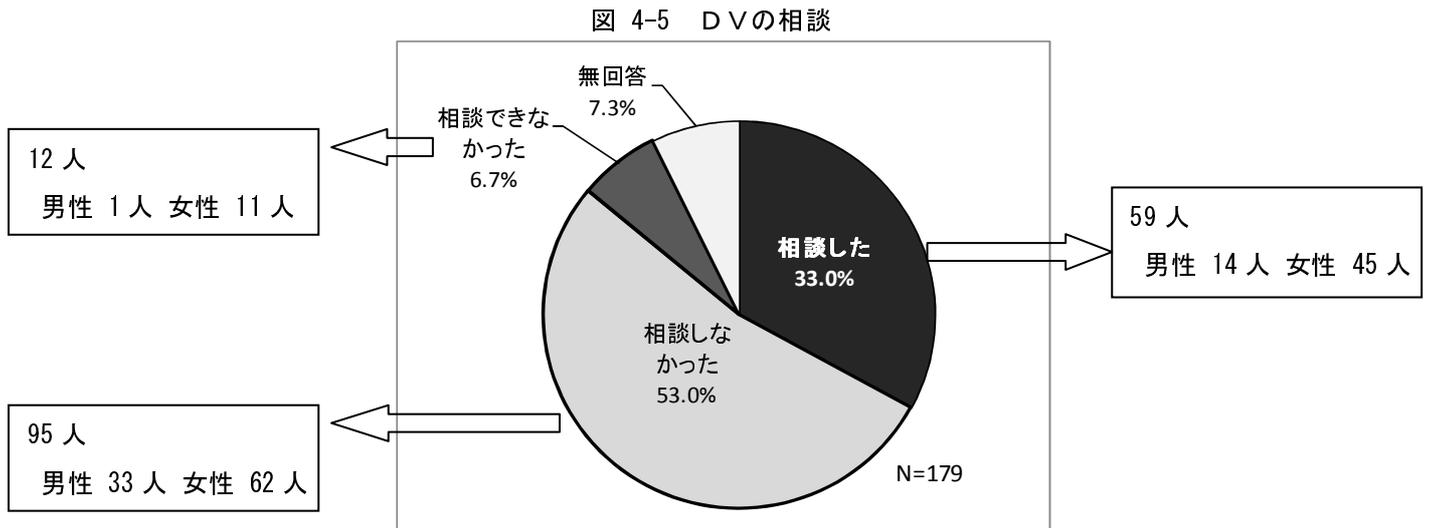
図 4-4 DVの経験



(4) DVの相談

問 19 問 18 でひとつでも 1 か 2 に○をつけた方にお聞きします。
 このような行為をされたことを誰かに相談しましたか。(1つだけに○)

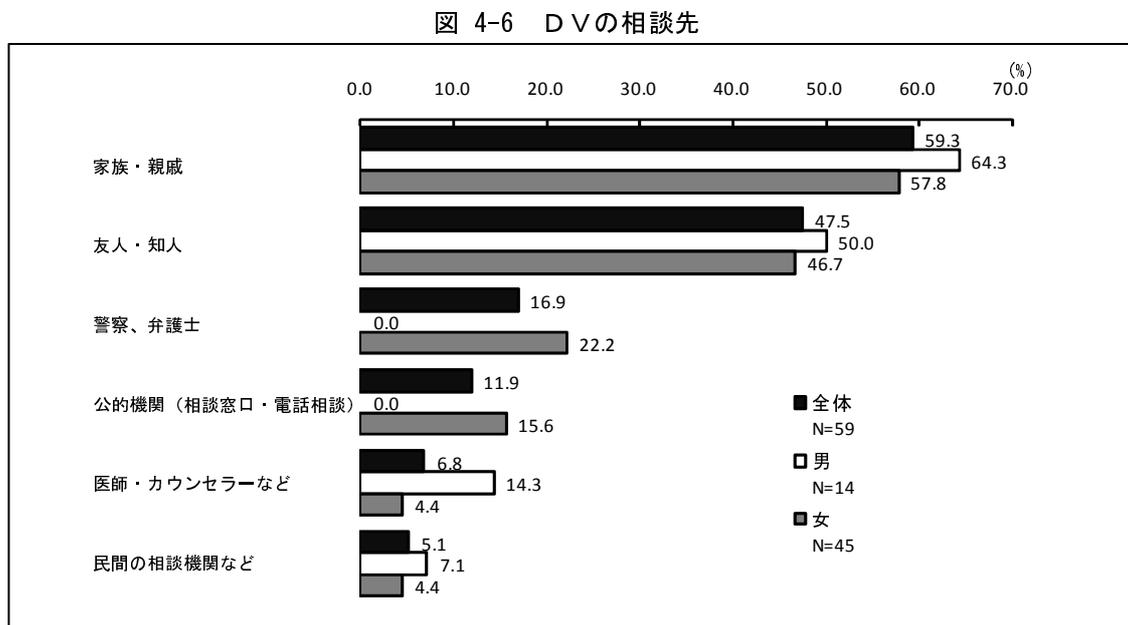
前問において、1 つでもDV経験があるとした 179 人のうち、誰かに「相談した」は 33.0%、「相談しなかった」が 53.0%、「相談できなかった」は 6.7%となっている。



(5) DVの相談先

問 20 問 19 で「相談した」方は、どこ（誰）に相談しましたか。(いくつでも○)

DVを受けていることを相談したとした 59 人の相談先は、「家族・親戚」が 59.3%と最も多く、次いで「友人・知人」が 47.5%となっている。



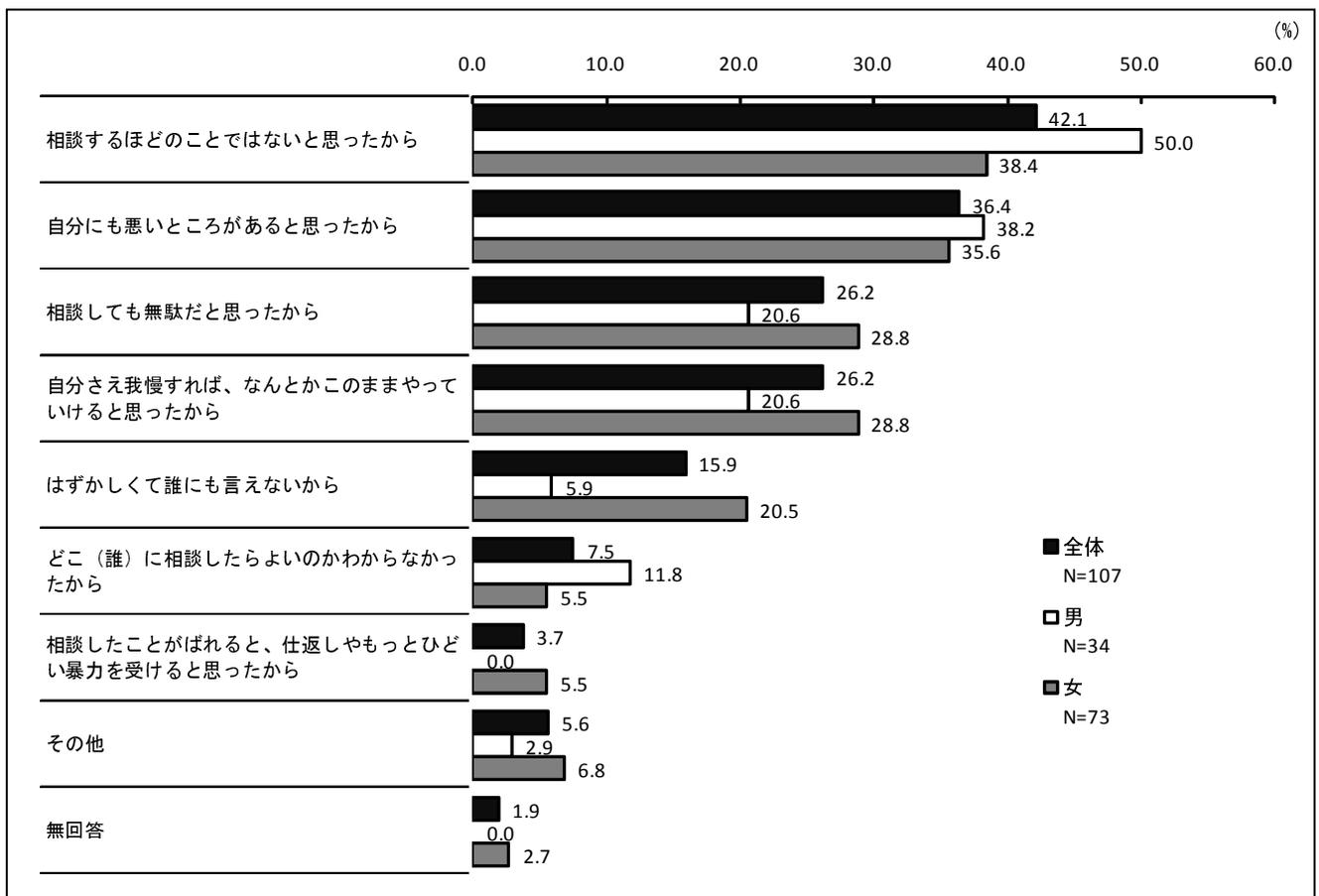
(6) 相談できなかった理由

問 21 問 19 で「2. 相談しなかった」か「3. 相談できなかった」とお答えの方にお聞きします。
 誰にも相談しなかった、相談できなかった理由は何ですか。(いくつでも○)

DVを受けていることを「相談しなかった」「相談できなかった」とした 107 人の理由をみると、「相談するほどのことではないと思ったから」が最も多く 42.1%、次いで「自分にも悪いところがあると思ったから」が 36.4%、「相談しても無駄だと思ったから」「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけるといったから」がそれぞれ 26.2%となっている。

男女別では、男性は「相談するほどのことではないと思ったから」が 50.0%と、女性に比べて 11.6 ポイント多い。女性は「相談しても無駄だと思ったから」「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけるといったから」がそれぞれ 28.8%と、男性をそれぞれ 8.2 ポイント上回っている。また、「はずかしくて誰にも言えないから」が 20.5%と、男性に比べて 14.6 ポイント多くなっている。

図 4-7 相談できなかった理由（複数回答）



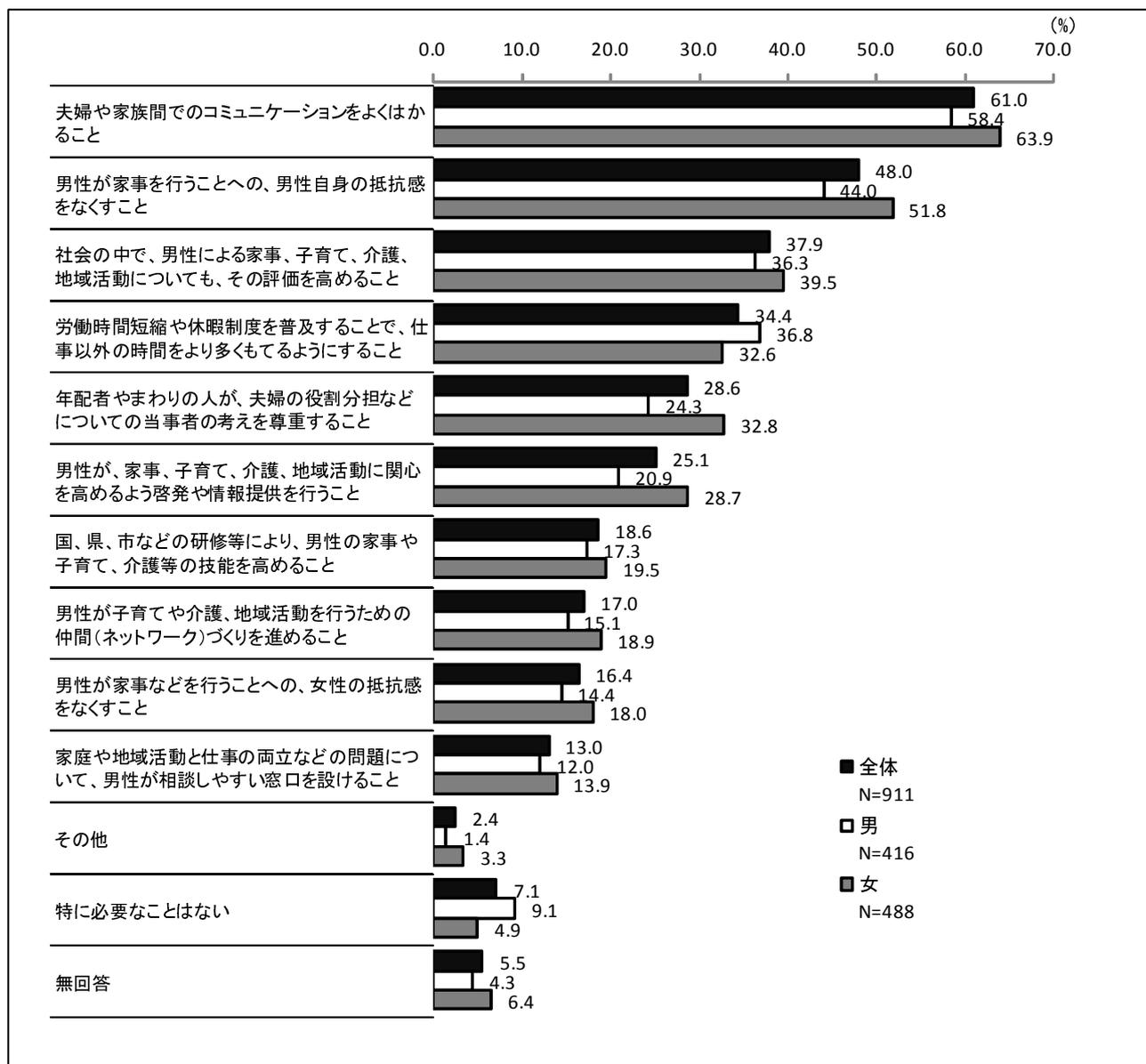
5. 男女共同参画社会実現に向けての取り組みについて

(1) 男性が家事等参加するために必要なこと

問 22 男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(いくつでも○)

男性が家事、子育て等に参加していくために必要だと思うことは、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が61.0%と最も多く、次いで「男性が家事などを行うことへの、男性自身の抵抗感をなくすこと」が48.0%、「社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についても、その評価を高めること」が37.9%、「労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多くもてるようにすること」が34.4%となっている。

図 5-1 男性が家事等参加するために必要なこと（複数回答）



性別年齢別でみると、男性の「20歳代」は「男性が家事などを行うことへの、男性自身の抵抗感をなくすこと」が70.8%と最も多い。また、「社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についても、その評価を高めること」が60.4%と、他の年齢層に比べて多くなっている。

表3 男性が家事等参加するために必要なこと（複数回答） (%)

		よく夫婦や家族間でのコミュニケーションを	男性が家事を行うことへの、男性自身の抵抗感をなくすこと	社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についても、その評価を高めること	労働時間短縮や休暇制度を普及すること、仕事以外の時間をより多くもてること	労働時間短縮や休暇制度を普及すること	年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考えを尊重すること	男性が、家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行うこと	国、県、市などの研修等により、男性の家事や子育て、介護等の技能を高めること	男性が子育てや介護、地域活動を行うための仲間（ネットワーク）づくりを進めること	男性が家事などを行うことへの、女性の抵抗感をなくすこと	家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設けること	その他	特に必要なことはない	無回答
性別年齢別	男:20~29歳 N=48	62.5	70.8	60.4	50.0	35.4	29.2	14.6	27.1	35.4	14.6	2.1	4.2	-	
	30~39歳 N=76	61.8	35.5	36.8	38.2	27.6	19.7	17.1	10.5	14.5	13.2	1.3	7.9	2.6	
	40~49歳 N=68	55.9	38.2	29.4	42.6	11.8	13.2	11.8	11.8	11.8	10.3	-	8.8	1.5	
	50~59歳 N=59	62.7	50.8	40.7	35.6	25.4	22.0	22.0	18.6	18.6	15.3	1.7	6.8	3.4	
	60~69歳 N=89	52.8	41.6	34.8	42.7	22.5	27.0	21.3	15.7	5.6	10.1	-	7.9	9.0	
	70~79歳 N=74	59.5	39.2	24.3	14.9	27.0	16.2	16.2	12.2	10.8	10.8	4.1	16.2	6.8	
	女:20~29歳 N=65	70.8	61.5	53.8	40.0	29.2	29.2	23.1	26.2	18.5	18.5	6.2	1.5	3.1	
	30~39歳 N=94	62.8	51.1	47.9	40.4	35.1	26.6	19.1	17.0	21.3	13.8	2.1	5.3	3.2	
	40~49歳 N=60	65.0	46.7	40.0	35.0	36.7	33.3	16.7	25.0	15.0	10.0	1.7	1.7	5.0	
	50~59歳 N=89	66.3	62.9	46.1	32.6	40.4	36.0	20.2	20.2	19.1	12.4	2.2	3.4	7.9	
	60~69歳 N=89	64.0	52.8	25.8	25.8	30.3	24.7	13.5	12.4	16.9	11.2	3.4	7.9	6.7	
	70~79歳 N=90	56.7	37.8	26.7	23.3	25.6	23.3	23.3	15.6	16.7	16.7	4.4	7.8	11.1	

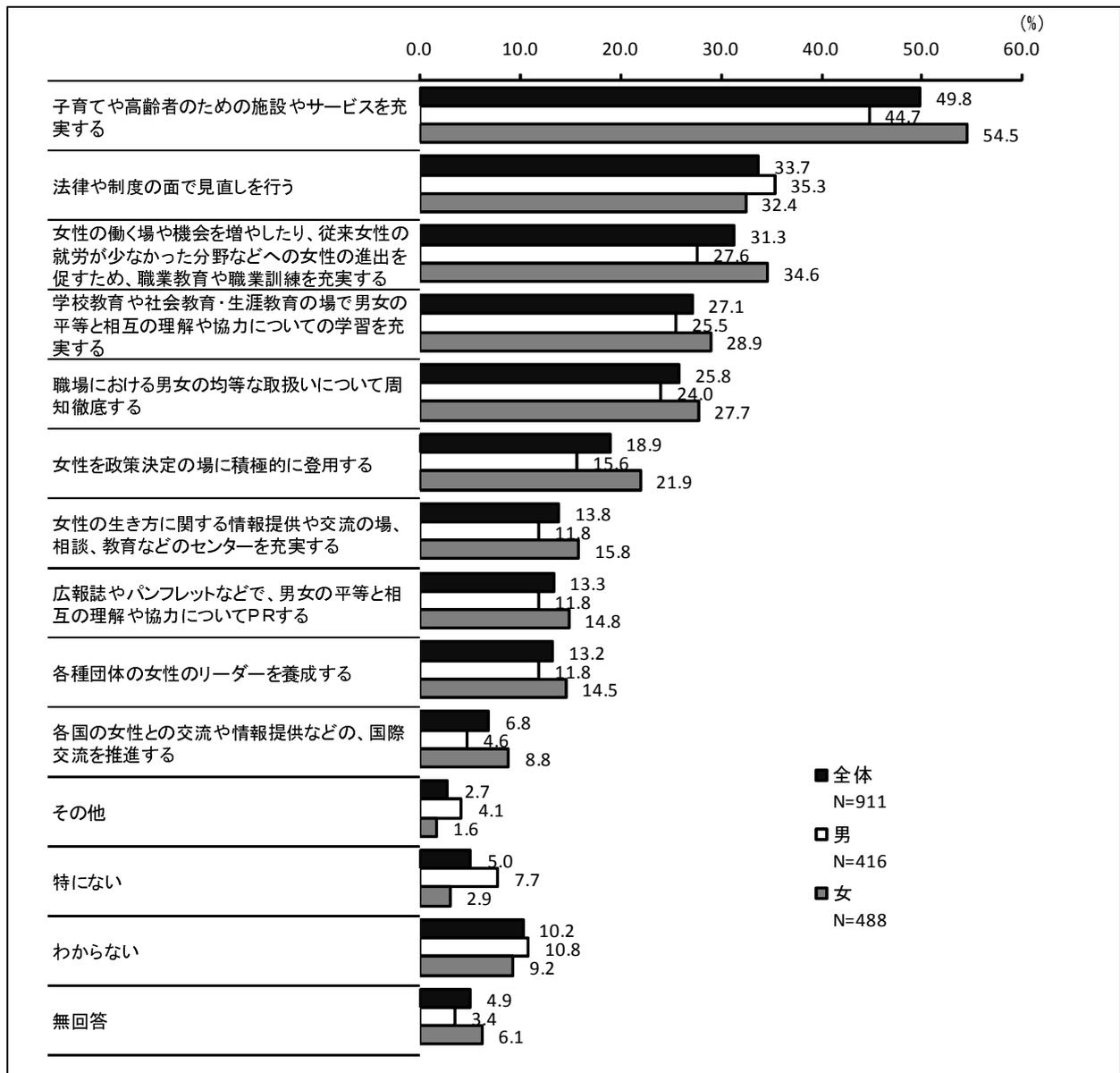
 = 最も多い数値

(2) 「男女共同参画社会」形成のために行政に望むこと

問 23 「男女共同参画社会」を形成していくため、今後、行政はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(いくつでも○)

「男女共同参画社会」を形成していくために、今後、行政に望むことは、「子育てや高齢者のための施設やサービスを充実する」が49.8%と最も多い。次いで「法律や制度の面で見直しを行う」が33.7%、「女性の働く場や機会を増やしたり、従来女性の就労が少なかった分野などへの女性の進出を促すため、職業教育や職業訓練を充実する」が31.3%、「学校教育や社会教育・生涯教育の場で男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する」が27.1%となっている。

図 5-2 「男女共同参画社会」形成のために行政に望むこと（複数回答）



性別年齢別では、男性の「50歳代」は「学校教育や社会教育・生涯教育の場で男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する」が42.4%と、他の年齢層に比べて多い。

表4 「男女共同参画社会」形成のために行政に望むこと（複数回答） (%)

		子育てや高齢者のための施設やサービスを充実する	法律や制度の面で見直しを行う	女性の働く場や機会を増やしたり、従来女性の就業が少なかった分野などへの女性の進出を促すため、職業教育や職業訓練を充実する	学校教育や社会教育・生涯教育の場で男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する	職場における男女の均等な取扱いについて周知徹底する	女性を政策決定の場に積極的に登用する	女性の生き方に関する情報提供や交流の場、相談、教育などのセンターを充実する	広報誌やパンフレットなどで、男女の平等と相互の理解や協力についてPRする	各種団体の女性のリーダーを養成する	各国の女性との交流や情報提供などの、国際交流を推進する	その他	特になし	わからない	無回答
性別年齢別	男：20～29歳 N=48	41.7	41.7	29.2	29.2	27.1	20.8	10.4	14.6	16.7	4.2	4.2	8.3	14.6	-
	30～39歳 N=76	44.7	42.1	27.6	21.1	23.7	11.8	9.2	5.3	7.9	6.6	2.6	2.6	15.8	1.3
	40～49歳 N=68	38.2	36.8	20.6	16.2	16.2	10.3	5.9	5.9	8.8	1.5	-	11.8	11.8	-
	50～59歳 N=59	50.8	32.2	30.5	42.4	25.4	18.6	13.6	15.3	13.6	5.1	6.8	3.4	5.1	1.7
	60～69歳 N=89	50.6	32.6	33.7	31.5	30.3	16.9	13.5	14.6	12.4	5.6	6.7	6.7	6.7	6.7
	70～79歳 N=74	41.9	29.7	24.3	16.2	21.6	17.6	17.6	16.2	13.5	4.1	4.1	12.2	10.8	8.1
	女：20～29歳 N=65	58.5	40.0	38.5	23.1	30.8	27.7	15.4	21.5	21.5	12.3	3.1	4.6	1.5	6.2
	30～39歳 N=94	45.7	35.1	33.0	26.6	34.0	19.1	11.7	8.5	13.8	7.4	2.1	4.3	10.6	2.1
	40～49歳 N=60	53.3	30.0	40.0	28.3	26.7	26.7	20.0	11.7	11.7	8.3	3.3	-	6.7	6.7
	50～59歳 N=89	53.9	31.5	33.7	32.6	27.0	22.5	16.9	14.6	11.2	6.7	-	3.4	9.0	9.0
	60～69歳 N=89	57.3	28.1	33.7	29.2	20.2	12.4	10.1	13.5	10.1	9.0	1.1	2.2	10.1	6.7
70～79歳 N=90	58.9	31.1	31.1	32.2	26.7	25.6	21.1	18.9	20.0	8.9	1.1	2.2	14.4	6.7	

 = 最も多い数値